



2018 年短期海外研修 (香港) 報告書

目次

巻頭言	2
参加者プロフィール	3
香港基本情報	8
香港中文大学基本情報	15
香港日本人商工会議所の訪問	19
ビジネス研修の概要	20
各企業でのビジネス研修	21
中国語プログラム	46
観光情報	48
個人感想	58
編集後記	80
【コラム】	
柱一	14
柱二	31
柱三	54

短期海外研修とグローバル人材

国際教育センター 教授 太田 浩

「国境をまたぐ能力」を身につけ、「アウェーで実力を発揮できる自信」を獲得することを標榜する本学の短期海外研修は、グローバル人材・市民としての“第一歩”を踏み出すプログラムと言える。短期海外研修（香港）は、今回二つの大きな変更を行った。一つは、ビジネス研修の時期を香港中文大学での中国語講座の後から前に移動したこと、もう一つはビジネス研修の中身を、企業から与えられた課題に基づく市場調査から企業内部での体験を重視する Job Shadowing 中心にしたことである。この二つの変更により、プログラムの対象者が広がるだけでなく、中国語講座とビジネス研修の親和性が高まり、結果として昨年より多くの参加者を得て実施することができた。加えて、本プログラム全体の満足度も高まった。

また、今回はこれまでになく向上心と好奇心の高い学生が参加したように思う。大学での事前授業から香港での実際の研修に至るまで、プログラム全体を通して、参加学生全員が何事にも積極的に取り組んでいた姿が印象に残っている。研修を通して経験したこと、学んだことを本報告書の作成を通じて内省化することにより、一人一人が文化の違いを超えるための能力・スキルの礎を築くと共に、次へのステップを自覚したに違いない。本報告書の完成が、研修の「完了」を意味するだけでなく、これからさらに世界で学び、グローバルに活躍するための「始まり」であることを願わずにはいられない。加えて、本報告書が次に続く学生の一助となることを切に期待したい。

短期海外研修(香港)に寄せて

経済学研究科・国際教育センター兼任 講師 奇 春花

香港で行われるこの短期海外研修プログラムは今年で 3 回目を迎えた。今回は 10 名の学部学生が参加し、前年度より参加学生が増えて嬉しく思う。

このプログラムは、1 週間のビジネス研修と 3 週間の中国語研修で構成されている。語学力のみではなく、「考動力」や「異文化適応力」の向上も図り、1 週目のビジネス研修には香港日本人商工会議所の訪問、日系企業における 3 日間の Job Shadowing 及びその成果報告会、香港ヤクルト工場の見学などを盛り込んだ。

成果報告会では、各自 Job Shadowing 受入企業で行ったことや、観察できたこと、そして何が学べたのかに加え、学んだことを今後どのように活用したいかについてそれぞれ発表を行った。各日系企業の現地職員に密着しながらビジネスの現場を観察する体験から海外でビジネスをすることとは何か、海外で働くこととは何かについてある程度イメージが出来るようになり、彼らの今後のキャリア形成にポジティブな影響を与えたものとみられる。この海外研修を通して、参加学生たちは、グローバル人材になるための大事な一歩が踏み出せたのではないだろうか。

最後に、香港中文大学の皆様、香港日本人商工会議所の柳生様、香港日立有限公司の皆様、City Super の皆様、香港角川有限公司の皆様、ABC Cooking Studio の皆様、かね善の皆様、香港ヤクルト工場の皆様、その他、この研修の実現のために尽力して下さった方々に心より感謝を申し上げます。

【参加者プロフィール】

稲葉りお（社1）



りおちゃん、稲葉氏、ぱーに一……ヶ月で命名されたあだ名は数知れない1女。高校時代は合気道部、大学では弓道に打ち込む体育会系(?)だけあって、行動的・積極的・賑やか！彼女の愉快的言動でいつもみんな笑顔になりました～♥CUHK での中国語の授業に対しては凄く真面目で、復習をきっちりやるなど、ストイックに取り組み続ける姿も印象的でした！彼女の香港での変化と言えば、叉焼飯(チャーシャオハン)に嵌って、毎日食べないとやっていけない体になってしまったこと。お土産で買っていた叉焼飯の素は、日本に帰ってきてから使ったのかしら。（文責 中牟田）

遠藤杏奈（商1）



「ān nà」、教科書の登場人物に名前の発音が同じ子がいたので、そのピンインで呼ばれています。海では真っ先に服を脱ぎ捨て水着になって潜る、寮のロビーにある卓球台に通って卓球の練習をする、マカオで1分の中に迷子になる、などのエピソードを持つ、自分の気持ちに従って行動できる女の子です。彼女はあまりに自立しているので、私のほうも「後輩だから気かけよう」と思うことがなく、同い年の友達のような感覚で仲良くさせていただいたと思っています。基本はテンションが一定なのですが、ごくたまに笑い出すと止まらなくなるところが、意外性があるって素敵です。（文責 流）

小西一葉（商2）



「ジブリに出てきそう」（老師談）な透明感、純粹でかわいらしいittyちゃん。おとなしい子なのかと思いきや、バスに乗らず毎朝1人で歩いて通学するというアクティブさと芯の強さがあり、どんな局面でも自分をしっかり持っているところがとても素敵。真面目なイメージとは裏腹に、実はとてもノリがいい。ittyちゃんポーズ、ittyちゃん語録など、彼女発のネタが次々と生まれてメンバーの間では大流行。先輩・後輩関係なく誰とでも仲良くできるittyちゃんはみんなのムードメーカーだった。（文責 山田）

小森景光（法3）



映画とお酒の大好きな法学部三年生。Level 2の授業を取ったために、いつも宿題に追われていたそうだが、その合間を縫って地元の映画館に通い詰めていた（計8本の映画を見たそう）。下級生に対しても敬語で話してくれるが、他人行儀というわけではなく、気さくに面白い話をしてくださる。個人的には、大富豪が鬼のように強いという印象がある。目的意識がとても強く、異国の地で、一人で何でも実行できてしまうエネルギーがある。映画産業に関わる、というご自身の将来の目標を「夢のような話」とおっしゃっていたが、私には小森さんが本気で取り組めば実現可能ではないかと思える。（文責 稲葉）

櫻田將人 (法1)



慎重・冷静・勉強熱心でありながら、興味を持ったこと、やってみたいことにはどんどん挑戦していく積極性や他者を理解しようとするコミュニケーション能力も持ち合わせていて、後輩というよりは先輩のような方です。また、1か月間同室で過ごしましたが、わりと衝撃的な（毎朝クライマックスシーンのような）アラーム音にも負けず、睡眠を継続できる特殊スキルにも感動しました。僕みたいのではなく、櫻田君のような方が法学部に多いのだとすれば、日本の将来も安泰です。（文責 小森）

関さくら (商1)



さくら、さっちゃん。先生は「关櫻 guān yīng」っていつもフルネーム呼びでした。「Sakuraってbeautiful nameだね!」とも言われていて羨ましいです。Job shadowingや授業においては非常に真面目な一方で、グループの妹的なマスコット的な存在でとても可愛らしく、周りを明るくしてくれます。おかげで「今天的小櫻(今日のさくらちゃん)」をLINEグループで誰かが勝手に更新します(笑)。この研修中で日に日に表情豊かになってきた気がしています、研修前半は真面目顔がメインだったのだけれど。もっといろいろな国に行ってみたい～って言っているあたりからもチャレンジ精神あふれる感じがしています。（文責 萩野）

中牟田雪奈（社2）



柔和でかわいらしい癒し系の雰囲気と、飾らない率直な言動が魅力の雪菜さん。かわいいうえに優秀、大富豪のカードに例えると「ハートの8」、とは稲葉氏の談。Job Shadowing の発表会では病欠のパートナー理子さんをカバーする見事なプレゼンを披露。また、持前の包容力とアクティブさで、Andy さんや Edith さんなど、CUHK の学生たちとも打ち解けていた。同学年でルームメイトでもあった一葉さんとよく一緒にいるイメージ。筆者はというと、授業へ向かうスクールバスでよく隣の席になって世間話をしたり、「地球の歩き方」を貸し借りして一緒においしい四川料理のお店を探したり、とにかく優しいお姉さんとして頼りにしていた。恋愛の話になると時折過激な発言が見られるようだが…。(文責 櫻田)

流真理子（社4）



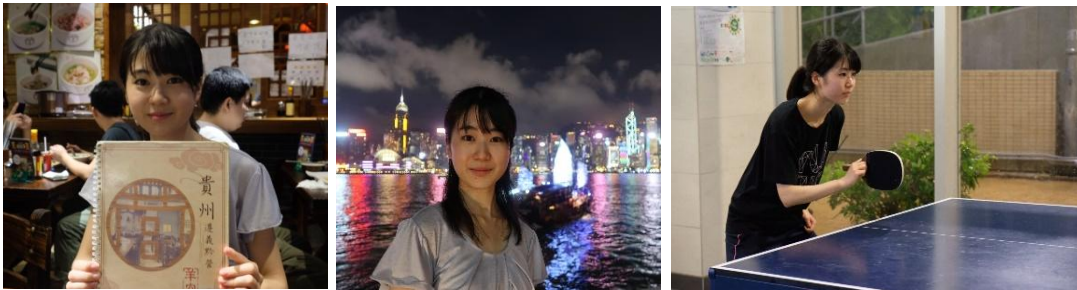
ワンピースが代名詞の真理子さん。旅行がご趣味。好奇心旺盛かつアクティブで、MTR 駅制覇を目指したり現地で出会った人々と積極的にコミュニケーションをとったりと異文化ライフを存分に楽しんでいた印象。唯一の4年生お姉さまだが、親しみやすさ全開の明るさと、どんなに騒がしいバス内でも聞き分けられる圧倒的可愛さを誇るまりこボイスで、無いようであるような学年の壁を見事に打ち破った。アルバムに多数保存されているソロショットはその証であり、特に、素敵な赤チャイナドレスを着て照れた様子のまりこショットは、もちろん保存済み。語りすぎて引かれたら元も子もないのでこの辺で。(文責 小西)

萩野雅彦（商4）



今回の香港研修のグループリーダーを立候補で引き受けてくださった、頼れる4年生。皆の兄であり、DJ であり、先輩を感じさせない、ついていきたい先輩。深圳に自分一人で行っても絶対生きていけそうなバイタリティに溢れる、包容力に溢れる人。夜な夜な希望者と共に大富豪をしつつ語ることが好きな人。一方で昼休みに昼寝をして、寝坊して始業時間に遅れることもある。いつの間にか他大や外国人の輪の真ん中に座って飲み会に参加していたこともある。とにもかくにも人間味に溢れたいい人。（文責 遠藤）

山田理子（社3）



理子さん。外見も行動も美しく、とてつもなく優しい方。笑顔が素敵。授業がある期間には自室で真剣に勉強しており、筆者は尊敬のまなざしで見ている。しかし、「りーちゃん」と呼ばれると喜んだり、寮の黄色い掛け布団をかぶってマンゴーと称したりするなど、かわいい一面もある。卓球をするときは目の色が変わり、杏奈氏との本気のラリーは見もの。また、朝に強く、寝起きの悪いルームメイト（筆者）にも優しくおはようと言ってくれる。風邪でのどを痛め、声がかすれていた時も、その声を生かしたキャラクターを演じ、笑いに変えてしまった。（文責 関）

【香港基本情報】

文責：小森景光

(1) 気候

亜熱帯気候に属し、夏の期間が長く、高温多湿である。日本ほど明確ではないものの、四季は存在する。春は3月から5月中旬ごろで、平均気温は21度ほどだが、湿度は低くない。夏は5月下旬から9月上旬ごろで、降水量が多く、気温・湿度が非常に高くなる（湿度が90%をこえる日も多い）。さらに、7月から9月にかけては、台風が頻繁に接近、上陸するため、香港天文台が発令する台風シグナル（日本における注意報、警報にあたる）の確認が必須となる。10段階で表示されるこのシグナルが8をこえた場合には、企業や学校、商店、銀行などは休業となる。また、台風シグナルと同様に豪雨警報も存在し、こちらは危険度が黄・赤・黒といった色で表示される。秋は9月下旬から12月上旬ごろで、晴天の日が多く、湿度も高くないため、観光に一番適したシーズンだとされている。冬は12月中旬から2月ごろで、平均気温は15度ほどになる。月ごとの平均気温を比較すると、2016年においては、2月が15.5度で最も低く、7月が29.8度で最も高い。また、2017年においては、2月が17度で最も低く、8月が29.3度で最も高い。1年間のトータルの雨量は2016年が3026.8mm、2017年が2572.1mmである。



香港特別行政区旗
(中央の花は香港のシンボルであるバウヒニア)

(2) 面積・地形・土地利用

2017年時点における香港の面積は約1106.34 km²である（東京都の約半分の広さにあたる）。中国の南東部に位置し、香港島、ランタオ島、九龍半島、新界、262の離島から形成されている。すでに開発されている地域は25%に満たない。カントリーパークや自然保護区が40%ほどを占める。

(3) 時差

GMT+8時間である。したがって、日本との時差は1時間となる。サマータイムは導入されていない。

(4) 人口統計

2018 年中期における総人口は約 7,448,900 人（男性は約 3,410,200 人、女性は約 4,038,700 人）。2018 年 4 月から 6 月における世帯数は約 2,569,200。2017 年における新生児数は約 56,500 人、死亡者数は約 46,600 人。2018 年 5 月から 7 月における労働人口は約 3,987,400 人であり、同時期の失業率は 2.8%である（季節変動調整済み）。

(5) 言語

公用語は中国語と英語である。イギリスの支配下にあった香港では、19 世紀半ばから 1970 年代までの間、公用語は英語のみだったが、1974 年に中国語と英語の両方に改められた。現在でも、政治、法律、知的・専門的な職業、ビジネスの場面では英語が使用されることが多い。日常的に使用される言語のほとんどが広東語である。

(6) 民族

約 91～92%が中国系（漢民族）である。

(7) 宗教

仏教と道教の信者が大多数を占めている。そのほか、カトリック、プロテスタント、イスラム、ヒンドゥー教、シーク教、ユダヤ教の信者が存在する。

(8) 教育

政府が 2009 年から実施した教育改革により、小学校 6 年間、中学校 3 年間、高校 3 年間、大学 4 年間の「三三四學制」が導入された。それ以前は、小学校から中学校の 3 年次までの計 9 年間の教育が無償とされていたが、改革後、無償教育の期間が延長され、高校 3 年間を含む 12 年間となった。小学校では、通常の授業は広東語で行われるが、中学校以降は、母国語教育が推進されている現在においてもなお、英語で授業を行う有名校や進学校が多い。

(9) 交通

中心部には 7 路線の地下鉄のほか、鉄道、バス、ミニバス、トラム、タクシー、フェリーなど、さまざまな交通機関が存在し、料金も日本と比べると安価なものが多いため、交通の利便性は高いと言える。地下鉄は乗り換えが容易だが、混雑度合は、日本と同様か、それ以上の場合も多い。

また、日本の Suica や PASMO に似た「オクトパスカード（八達通）」というプリペイドカードが存在し、交通機関や日々の買い物はもちろんのこと、大学構内の寮におけるランドリーや映画館のチケット売り場など、幅広い場面で使用できる。チャージ（add value）は駅や専用機械を設置したコンビニなどで行うことができる。



中心部を走るトラム

(10) 通貨

通貨は香港ドルである。香港には日本銀行に相当するような中央銀行は存在しないため、3つの発券銀行がそれぞれ異なるデザインの紙幣を発行している。

紙幣（HK\$）は 10 HK\$、20 HK\$、50 HK\$、100 HK\$、500 HK\$、1000 HK\$ の 6 種類である。

硬貨は 10¢、20¢、50¢、1HK\$、2HK\$、5HK\$、10HK\$ の 7 種類が存在する。2018 年 9 月の香港ドルのレートは、1HK\$ が約 14～15 円である。物価は比較的高いと言われている。

(11) 飲酒・喫煙についての制限

18歳未満の者はアルコール・煙草を購入できない。また、屋内の公共施設および職場における喫煙は全面的に禁止されている（多くの屋外の観光地なども同様である）。

住民の健康増進を主な目的として、度数の高いアルコールや煙草には例外的に関税がかけられている。また、商店などで販売される煙草のパッケージには、喫煙によって発生した健康被害や症例の写真が掲載されている場合が多い。

(12) 飲料水

日本の水道水と同じく、香港の水道水も軟水であり、飲用が可能であるとされているが、水道管自体が汚れている場合があり、注意が必要である。水道の蛇口にろ過装置を設置するか、あるいは、市販のミネラルウォーターを購入することが望ましい。

(13) 電圧とプラグのタイプ

電圧は 200～220V。プラグのタイプは B、B3、BF、C。220V・B3 タイプが一般的である。

(14) 経済・産業

コモンローの透明な法制度や簡素で低率の税制、あらゆるビジネスに対する「自由放任」の態度（「フリーポート」として名高い）などが香港経済の特徴である。アメリカのシンクタンクによる経済自由度ランキングにおいても、香港は 2018 年まで 24 年連続で世界 1 位に選出されている。会社の設立が容易であり、設立コストを低く抑えることも可能であるため、世界中の多くの企業が香港にアジア拠点を構えている。また、経済面についての香港への中国による関与は、政治面に比べ、希薄である。

現時点における香港の主要産業は、金融業、不動産業、観光業、貿易業などである。

2017 年の GDP は約 2 兆 6,609 億香港ドルであり、同年の 1 人当たりの GDP は約 359,996 香港ドルである。

(15) 政治・法律

1997 年 7 月 1 日に香港がイギリスから中国に返還されて以来、「一国二制度」が実施されており、「中華人民共和国香港特別行政区基本法」は、香港特別行政区に「高度な自治」を認め（第 2 条）、社会主義制度と政策を実行せず、従来資本主義制度と生活方式を維持し、50 年間変えない（第 5 条）などと定めている。したがって、香港にとっての元首は中国国家主席（現在は習近平氏）だが、別に行政長官（現在はキャリー・ラム氏）というポストが存在する。行政長官は香港特別行政区の首長として、香港特別行政区を代表し、中央人民政府と香港特別行政区に対して責任を負う（第 43 条）。

近年、中国寄りの香港政府に反発する民主派のグループによる活動も活発化しており、2014 年には民主化を求める学生らによる、いわゆる「雨傘革命」という名のデモも展開された（デモ隊は強制排除された）。

香港の民主化や独立については、各個人の主義主張がかなり異なり、歴史的・民族的な問題もはらむため、香港人との会話の中で 1 つのトピックとして持ち出す際にも、デリケートな扱い、対応が必要である。

(16) 軍事

陸、海、空の三軍からなる香港駐留部隊が駐留している。中国中央軍事委員会が責任を有している。

(17) 治安

2017 年の犯罪発生件数の総数は 56,017 件である。主なものとしては、窃盗が 23,806 件、暴力事案が 9,086 件、詐欺が 7,091 件である（殺人は 24 件）。

観光地域（九龍、香港島）や交通機関内における窃盗事件が多発しており、地下鉄車内にもスリや置き引きへの注意を呼びかけるポスターが多数掲示されている（右写真参照）。



スリへの注意を呼びかけるポスター

(18) 日本と香港の外交関係

①現在締結されている日本・香港間の協定は以下のとおりである。

- ・ 航空業務に関する協定（1997年6月18日発効）
- ・ 投資の促進及び保護に関する協定（1997年6月18日発効）
- ・ 日香港刑事共助協定（2009年9月24日発効）
- ・ 日香港租税協定（2011年7月15日発効）

②2016年における日本・香港間の貿易の実績は以下の通りである。

[貿易額]

対日輸入 2,467億香港ドル（318億米ドル）

対日輸出 1,167億香港ドル（150億米ドル）

[主要品目]

輸出 (ア) 通信・音響機器、(イ) 電気・電子機器、(ウ) その他機器

輸入 (ア) 電気・電子機器、(イ) 通信・音響機器、(ウ) 事務機器

③2015年における日本から香港への直接投資実績は2,258億香港ドル（ストックベース）である。

④日本政府（外務省）は香港に対し、以下のような政治的態度を表明している。

〈我が国は、香港が「一国二制度」の下における「高度な自治」や法の支配をめぐる問題をいかに処理するかは、香港自身の発展にとって、また中国の将来、さらには我が国を含むアジア太平洋地域の安定と繁栄にとって極めて重要であると認識しており、香港が今後とも「一国二制度」の下で自由で開かれた体制を維持し、発展させていくことを強く期待している。〉

(19) その他

2018年8月17日(今回の研修期間中)、香港政府は、蚊が媒介するデング熱の発生により、黄大仙地区の獅子山公園を閉鎖した。

【主な参考資料・参考文献】

外務省 香港基礎データ <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/hongkong/data.html>

Gov HK>About Hong Kong <https://www.gov.hk/en/about/abouthk/>

Gov HK:Hong Kong-the Facts <https://www.gov.hk/en/about/abouthk/facts.htm>

香港天文台 <http://www.hko.gov.hk/contentc.htm>

(以上のサイトについての最終閲覧日は2018年9月9日)

「2017年香港警察統計」

「会議所活動と香港の現況」(2018年7月 香港日本人商工会議所)

『地球の歩き方 D09 香港 マカオ 深圳 2018~2019年版』(2018年7月『地球の歩き方』編集室著作編集 ダイヤモンド社)

「OUR HONG KONG 2017」(2017年4月 the Information Services Department of the HKSAR Government)

「OUR HONG KONG 2018」(2018年3月 the Information Services Department of the HKSAR Government)

柱一 香港の足・メトロ攻略

文責：山田理子

MTR(メトロ・地下鉄)に乗るとき、スーパーで買い物をするとき、寮で洗濯をするとき…

香港で支払いをする場面で広く使えるのが、オクトパス（八達通）と呼ばれるチャージ式のICカードです。日本のSuicaのような存在ですが、万能さでいったら圧倒的にオクトパスの勝利！香港中どこへ行ってもオクトパスで

の支払いが可能なので、不慣れな香港の小銭を扱う手間も省け、非常に便利でした。

オクトパスの使い方にもだんだん慣れてきたある日。中環の歩道橋を歩いていると、道行く人がオクトパスを何かの機械にかざして通り過ぎていく光景を目にしました。不思議に思って近づいてみると、なんとこの機械、オクトパスの「割引機」でした！カードを機械にかざすと”Discount Set!”というメッセージが表示され、次回MTRを利用するときの乗車賃から2ドルが割り引かれるとのこと。実際に試してみたところ、ちゃんと2ドル安い値段でMTRに乗ることができました。この情報、ガイドブックや香港紹介サイトには載っていなかったので、現地の人以外にはあまり知られていないのかもしれませんが。実際に街を歩いたからこそできた発見でした！



オクトパスカード（八達通）



カードを割引機にかざして
嬉しそうなゆきちゃん

【香港中文大学基本情報】

文責：遠藤杏奈

1. 概要

香港中文大学（The Chinese University Of Hong Kong; CUHK）は、香港大学と香港科技大学と並んで、香港 3 大の一つに数えられている。実際、2018 年にはアジア大学ランキングで、香港大学は 4 位、香港科技大学は 5 位、CUHK は 7 位だった。東大はその下の 8 位だった。¹CUHK には文学院、工商管理学院、工程学院、医学院、理学院、社会科学学院および法律学院があり、現在約 16,370 人の学生と約 1,480 人の留学生、19,860 人の大学院生、約 7,630 人の教職員がいる。文学院には日本研究学科があり、香港で最も日本研究が盛んな大学である。また、一橋大学の 4 倍の大きさの 137.3 ヘクタールの広大な敷地を持ち、香港で最大の大学である。大学の敷地に大学駅が隣接しており、通学にも便利である。²CUHK は香港で唯一英国式のカレッジ制を採用しており、全部で 9 つのカレッジがある。それぞれのカレッジに寮や食堂などが備え付けられており、交換留学、セミナー、語学系の授業、課外活動などがカレッジごとに開催される。



寮から眺める景色



学内に 9 つある寮の一つ

¹ https://www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/2018/regional-ranking#!/page/0/length/25/subjects/3096/sort_by/scores_industry_income/sort_order/asc/cols/stats

² <http://www.cuhk.edu.hk/english/campus/accommodation.html>

2. 歴史

既にあった New Asia College、Chung Chi College、United College が統合する形で 1963 年に CUHK が創設され、1966 年には香港で初めて大学院が設けられた。特に CUHK の MBA は歴史が古いこともあり、世界的に非常に有名である。1972 年に現在のキャンパスに移設され、1986 年に Shaw College が創設された後、2006 年から 2007 年にかけて残りのカレッジが創設されて現在の形になった。

New Asia College、Chung Chi College、United College は 1950 年前後に創設された。1949 年の中華民国が中華人民共和国に変化する激動の中、香港には中国からたくさんの移民とともに優秀な学者たちも流れ込んできたが、上記の 3 つのカレッジもそのような人たちによって築かれた。彼らの目的は西洋の進んだ知識を広めるとともに、中国の伝統的な文化を保存し、バランスをとりながら両方の発展を推し進めることだった。その精神は現在の CUHK にも受け継がれており、中文大学の中文とは、中国語のみならず、中華文化のことも指し示す。

この初期の 3 つのカレッジが結合するきっかけになったのは、学位を香港政府に求めてのことだった。当時の University of Sussex の副学長であった John Fulton が香港に呼ばれ、現在の CUHK の原型となる構想を作り、CUHK が創設された。現在もその功績を称えるため CUHK の中には John Fulton Centre がある。

3. キャンパス、施設

前述の通り、CUHK は東京ディズニーランドの 3 倍もの面積を誇る広大なキャンパスを保有している。さらに、建物は山を取り囲むように配置しており、建物から建物へ移動するためにはハイキングをしなければならない。そのため、校内をスクールバスが常に走っており、学生と教職員ならば無料で乗ることができる。それ以外の人でも HK \$5.5 で小巴に乗ることができる。食堂 (Canteen) はキャンパス内に満遍なく配置されており、合計で 30 以上もある。ベジタリアンもあれば、アイスとパンケーキを売っているおしゃれカフェもあれば、スタバもあり、タピオカ屋さんもあり、本格的な点心が食べられるレストランもあり、180 円ほどで比較的まともなお昼ご飯が食べられる学生



キャンパス内にあるカフェ



寮に併設されたトレーニングルーム

に優しい Canteen もある。自販機もそこそこあるので大学内でカロリー摂取に困ることはない。また、前述の John Fulton Centre の 1 階にはスーパーマーケットもあるので、簡単な料理がしたい人は寮ですることできる。大学内にはジムもあり、駅の近くに大きなジムがあるほか、留学生が滞在する Lee Woo Sing College の地下 1 階にも朝から夜まで開いているジムが併設されている。校舎内には座りごちの良いテトリスのようなソファがそこら中にあり、昼休みは多くの学生で賑わう。

4. 学生生活

一般学生は各々入学時に入りたいカレッジを選び、そのカレッジの寮に入寮する。留学生の場合、Lee Woo Sing College に入寮し、そこで生活することになる。寮の生活区域に入るためには支給されるカードキーが不可欠なので、なくすとどうにもならない…と思いきや、ゲートの横をすり抜れたり、友達の後をカルガモのようについて行って入ったりなど、いかようにも手はあるのでいい友達を持っていることが 1 番大切である。



学生寮 Lee Woo Sing College の入り口

授業は 9:30 から始まり、12:00 頃まで続き、14:30 に再開し、17:00 に終わった。授業

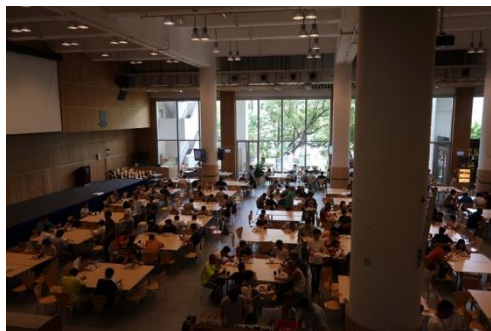


広いキャンパスを巡回するシャトルバス

時間は長いですが、途中で休憩がしばしば挟まれるので、一橋の授業に比べれば苦にはならない。授業以外にもネット上で宿題が出されるが、あまり負担ではない量に設定されていた。ただし、Mac + iPhone ユーザーの場合、サファリではうまくいかないの、学校のパソコン室に行くか、iPhone に Firefox をダウンロードして宿題をしなければならない。始業時間が遅いように見えるかもしれないが、バスに乗って教室に着くまで 15 分ほどかかるので、バスに乗り遅れると遅刻する可能性が高い。よって、バスに乗るためにダッシュする学生の姿がしばしば見受けられる。バスの運転手は一度ドアを閉めると頑と

してドアを開けてくれないので、運転手に乗りたいことをアピールしつつ走ることが肝要だ。

食事については、Canteen でメニューを選べば美味しく安く食べることができる。ただし、メニューにインスタントラーメンが結構な割合で混じっているのが、知らずに頼むとがっかりすることがある。とはいえ、英語が書いてあっても期待通りの料理が出てくることの方が少ないので、そんなものだと思ってたのめば美味しく頂ける。また、昼休みが長いため、校外に出てご飯を食べることも可能だ。逆に構内でいろんな Canteen に行ってみるのも一興。



寮に併設するカフェテリア

学校の敷地に駅が併設されているため、放課後や週末に街中に繰り出すことは容易である。寮の一階には卓球台もあり、常に使っている学生がいるほど人気だ。ラケットとボールがカゴに入っておいてあり、自由に使えるようになっている。

寮には無料の wifi がついており、生活に不自由することはない。キッチンもついてい



構内のスーパーマーケット

るが、料理をする学生は稀である。キッチンにはお皿とカトラリーがおいてあるが、アリが大量にいるので使う前には一度石鹸で洗うことをお勧めする。もしくは、レストランでテイクアウトに使ったお皿とカトラリーを使う手もある。キッチンでフィルターウォーターと熱湯が手に入るが、あまり美味しくはないのでティーバックか飲み物を買うことをお勧めする。寮には共用のシャワーとトイレもついていますが、アメニティー（トイレトペーパー含む）は常備されていないのでルームメイトと割り勘で買っている人が多かった。トイレトペーパーは入寮時に 2 個支給されたが、それがなくなったら自分たちで買わなければならないので、大事に使うか、いっそ大量に使って買ったものを使い切る勢いでいた方がいいように感じた。

https://www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/2018/regional-ranking#!/page/0/length/25/subjects/3096/sort_by/scores_industry_income/sort_order/asc/cols/stats

<http://www.cuhk.edu.hk/english/campus/accommodation.html>

【香港日本人商工会議所の訪問】

文責：萩野雅彦

7月29日、到着2日目の我々は、銅鑼湾にある香港日本人商工会議所を訪問させていただきました。銅鑼湾の沢山のお店が立ち並ぶ通りを歩き、立派なビルの9階にあるオフィスに向かいました。会長の柳生様からお話をいただき、香港におけるビジネスや現地の日系企業についてのレクチャーを受けました。

柳生様は総合商社を退職されたのちに、日本人倶楽部の事務局長と香港日本人商工会議所の会長を兼任されています。英国領時代の香港からご活躍されている柳生様は、立地条件や法整備の状況などにも精通されており、日系企業目線でのお話をいただくことができました。

私が最も感心した点が、香港は日系企業の拠点になりうるということです。これは法人税率が低いことやアジア各国へのアクセスのよさなどに起因するとのこと。この後のJob Shadowingで訪れるABC CookingやHITACHIが紹介されている冊子もいただきましたが、この冊子ではそれ以外にもさまざまな有名日系企業の香港でのビジネスを紹介しており、より香港を身近に感じることができました。

我々は柳生様と東京での11月1日の香港イベントで再会する事を誓い、施設を後にしました。



商工会議所の柳生様より香港現地の日系企業について説明を受ける

【ビジネス研修の概要】

文責：関さくら

今回の研修では、私たち研修参加者 10 名が 2 人ずつ、在香港の日系企業 5 社を訪問し、Job Shadowing(ビジネスの体験・観察)を行いました。研修内容は企業によって異なり、レクチャー形式の学びから実際の体験まで、五感を駆使した幅広い体験をさせていただくことができました。また、企業で働く社会人と直に接することで、自分の職業観を育むだけでなく、積極性・チャレンジ精神・主体性等の向上、さらには今後大学で学んでいく意義の理解や、学習意識の向上を目指しました。

大学入学してまだ半年の 1 年生から就活を終えた 4 年生まで、様々なモチベーションをもった学生 10 名の参加となりましたが、全員が何らかの大きなことを学ぶことができ、非常に有意義な経験でした。

☆今回訪問した 5 社☆



日立製作所さん



City' Super さん



かね善さん



香港角川さん



ABC Cooking Studio さん

【各企業でのビジネス研修】

Job Shadowing at Hitachi

文責：櫻田将人

私、櫻田と流さんは日立香港に3日間お世話になった。私は日頃から企業の活動やビジネスにあまりアンテナを張っているわけではなかったので、名前をよく知っている日本企業だから、という曖昧な理由で日立を研修先にした。当時の日立に対するイメージは、エレベーターやエスカレーターの設置、白物家電の製造販売などを行うメーカー、というものだった。しかし、その印象は研修を通して大きく覆ることとなった。

- 日立香港の事業

日立香港の事業を理解するための2つのキーワードは Social Innovation Business と Co-creation である。日立香港は現在 Social Innovation Business と呼ばれる事業に力を入れている。単に形ある製品の製造販売を行うだけでなく、社会問題を発掘し、それに対して日立の持つ技術を活用したソリューションを提案することで社会に貢献する。そして、日立の技術力を活かせるチャンスを発掘するため、デジタル技術を活用して顧客の意見を吸い上げ、ともに解決策を探るプロセスが Co-creation(協創)である。今回私たちは香港市民に向けたアンケート調査の原稿を作ることを事前課題としていただいたが、これも市民の声を事業に反映させていきたい、という日立の Co-creation の理念から発せられたものだろう。

- Auto-Parking System

Job Shadowing における私達の主な活動は、先に述べたアンケートの実施と、日立香港のビジネスの実際について、様々なレクチャーを受けることだった。レクチャーの中で Social Innovation Business の具体的事業例を多数紹介していただいたが、その中で最も印象に残った Auto-Parking System 事業について紹介したい。

本事業は、車の出入庫が全自動で行われる無人駐車場の建設を目指している。車はナンバープレートによって自動で識別、管理され、顧客は自身の車の管理状況や車庫の空き状況の確認、予約までをスマートフォンのアプリから行うことができる。香港では初の試みだ。

本事業における日立の主なパートナーは 2 社である。1 つは中国本土の企業 Xizi である。同企業は最も重要な Auto-Parking System に関する技術を持ち、本土での同様の事業実績も豊富だ。中国で成功を収めたシステムを、香港にも移植する狙いだ。もう 1 つは地元企業の REC で、彼らはビルディングの運用管理(電気、空調、排水システムの整備等)を行う。ここに日立の日本企業としてのブランドが加わる形だ。

技術と実績を持つ海外企業、地元根ざしたエンジニア、日立のブランド力の 3 つが揃い、事業は前途洋々に見えるが、2 つの大きな課題がある。

1 つは誰がリスクを負うかという問題だ。本事業は香港初のチャレンジということもあり、それなりのリスクも伴う。どの企業がどのくらい事業にコミットするのか(出資や人材の動員、プロジェクトの指揮など)の比率について、調整が難航している様子だった。日立は、自らプロジェクトの指揮を執って責任を負うプランから、出資や指揮は他の 2 企業に任せてブランド力の提供にとどまるプランまで、コミットの程度にグラデーションのある 5 つの方針を用意していたが、結局最もローリスクローリターンな方針を採用した。これには、もう少し積極的になってもいいのでは、と素人ながらいささか驚いてしまったのだが、理由を尋ねると「自社の技術、自社の社員を動員できない以上、建設や管理におけるリスクを全て負うことはできない」とのことだった。運用の過程で事故などが発生するリスクも考慮に入れた、現実的な判断のようだ。

もう 1 つの課題は、中国と香港という 2 つの地域の持つ様々な差異である。先に挙げたナンバープレートによる車の識別について、中国ではナンバープレートの企画が統一されているので読み取りが簡単に行えるが、香港では規格はバラバラで、識別システムの構築が容易ではない、という問題がある。また、建物の安全基準は中国本土より香港の方が厳しく、Xizi の持つ技術をそのまま香港に移植すれば良い、という訳にはいかない。更に当然ながら、彼らが普通語と広東語という異なる言語を使用している以上、意思疎通の問題もある。

このように、地域間の差異は時にビジネスの障害となり得るが、同時にビジネスが生まれる契機でもあると思う。この事業も、「中国本土では Auto-Parking System が普及しつつあるが、香港ではまだそれほどでもない」という状況があつてこそのものである。「違いはリスクでもあるが、同時にチャンスでもある。」今回の事例から私が得た教訓である。この原稿を書いている時、中国の大手交通サービス会社滴滴出行(DiDi)が、日本でのタクシー配車サービスの運用を開始したという報に接した。これも、「日本では中国ほどタクシー配車サービスが普及していない」という差異にチャンスを見出した好例だろう。

- 感想

あくまで見学者という立場からであったが、ビジネスの現場にここまで深く入り込んだのは初めての体験だった。企業がどのように自らの理念を決定し、それがどのように個々別々の事業に落とし込まれて行くのか。複数の企業がどのように相互作用を及ぼしあい、どのように一つの成果に結実していくのか。こういったことだけではない、企業の内部がどのような部署に分かれているのか、オフィスの中はどうなっているのか、名刺はどうやって受け取るのか、取引先との飲茶では何を話すのか、企業は若者に何を求めているのか…。学ぶことは山のようにあった。

また、日立の方々には本当に親切にいただいた。1日目と3日目の研修後は、Cindyさんや Dominicさんが尖沙咀や旺角にミニツアーに連れ出して下さり、Andyさんは Job Shadowing のプログラムが終わったあと2回も個人的にお会いすることができ、法学部生の私に知り合いの弁護士まで紹介して下さいました。身に余るおもてなしに、感謝してもしきれない。本当にありがとうございました。



社員さんとの記念撮影

Job Shadowing at Hitachi

文責：流真理子

◆アンケート調査について

1. 事前課題

HITACHI から頂いていた課題は、「香港政府は現在スマートシティ化を進めている。香港人は日本のテクノロジーを強く信頼していて、日本企業は大きく期待されている。二人（櫻田と流）には、香港市民の意見を集めて、彼らが香港のスマートシティ化にどのような考えを持っているかと、HITACHI の香港でのビジネスチャンスについて理解を深めてほしい。香港に来る前にそのための質問票を作ってくること。」というものでした。大まかな指示に対してどんなものを用意したらよいか苦しみました。HITACHI のグローバルサイト、香港版サイトを参考にしつつ、「スマートシティ化の計画を知っているか」、「日常生活の中でどのような不便を感じるか」といった内容の質問票を準備しました。

2. 質問票のブラッシュアップ

2 日目の午前に、Andy さんからご指導を頂き、事前に準備した質問票のブラッシュアップを行いました。まず香港政府が策定しているスマートシティ化の計画について解説していただき、その後「香港市民が日本のテクノロジーに対してどのような感情を持っているかを尋ねる項目を追加したほうがいい」といったアドバイスを頂き、質問票に反映させて、ブラッシュアップしました。

3. アンケート調査

2 日目の午後に、完成させた質問票を使って、実際にアンケート調査を行いました。HITACHI のオフィスがあるサイエンスパークと、私たちが留学している香港中文大学の康本インターナショナルパークで、計 3 時間程度の調査を行い、28 人から回答を得ました。学生以外の一般市民と話す機会を得られるとは思っていなかったもので、できるだけ会話をすることを心がけていました。私が話しかけた時にアンケートを断られることは一度もなく、すべての方が大変



ミーティング中の様子

丁寧に対応してくださったことに感激しました。

4. 結果のまとめとプレゼン

3 日目は Excel を使ってアンケートの結果を集計し、PowerPoint で簡単なスライドを作成しました。スケジュールの変更により、きちんとしたプレゼンをする時間が無くなってしまったものの、Andy さんに口頭で簡単に説明させていただきました。アンケート内容と結果を以下にまとめます。



アンケート調査中の様子

【Questionnaire about Smart City Plan of Hong Kong (n=28)】

Government promote smart city blue print in six areas in February 2018.

1. Do you know about the smart city plan of Hong Kong?

Yes 25% / No 75%

Which of the following options would you most like to expect?

a. smart mobility:9(people) / b. smart living:9 / c. smart environment:6/
d. smart people:1 / e. smart economy:2 / f. smart government:1

2. Do you have any inconvenience in your daily life in Hong Kong?

Yes 57% / No 43%

(if yes,) What makes you feel inconvenient?

Traffic, Mobile Payment...etc.

3. Do you think that Tokyo is smart city?

Yes 57% / No 0% / I don' t know 43%

4. Do you trust in Japanese technology in smart city development?

Yes 28% / No 7% / I don' t know 15%

5. Do you think that government reflect citizen' s needs in smart city blue print?

Yes 46% / No 54%

◆感想

たった 3 日間とは思えないほど様々なことを感じましたが、大別すると以下の二つに集約されると思います。

一つ目は、香港では日本の技術が信頼されていると実感したことです。私は、IT やテクノロジーの分野では日本は世界の最先端からは後れを取っているという印象があり、東京よりも香港のほうが、スマートシティ化が進んだ都市だと考えていました。しかし、アンケートでは、多くの香港人が日本のテクノロジーを信頼しており、また、東京をスマートシティだと考えているという結果になりました。今回私たちが行った調査は大変小規模なもので、正確な調査ではありませんが、香港市民の日本ブランドへの信頼を知るためには十分だったと思います。自分が思っていたほど悲観的になる必要はないのだと、励まされるような、慥を入れられたような感覚になりました。

二つ目は、自分の関心分野が IT であることを再発見したことです。HITACHI で実際の商談を見学させていただいたり、香港市民の声を聞いたりする中で、人々が困っていることはどのようなことで、IT を使って如何に解決していけるだろうかということを考えるのは刺激的な経験でした。特に香港は、地理的な制限や人口密度の高さから、すべてのことをどう効率化するかを常に考える必要に迫られる、IT が特に大きな役割を果たすことができる都市だと感じました。私は来年から IT 企業で働くため、この分野の面白みを今確認できたことを嬉しく思うと同時に、近い将来、香港や、海外で働く機会を得たいという目標も持つことができました。

最後に、HITACHI の Andy-san, Cindy-san, Dominic-san, 社員の皆様、アレンジしてくださった先生方、香港商工会議所の柳生様、ペアだった櫻田君、関係してくださった皆様に感謝申し上げます。貴重な機会を頂きまして、誠にありがとうございました。

Job Shadowing at City' Super

文責：関さくら

1. City' Super にお邪魔したいと思った理由

私は国内外のスーパーマーケットが好きで、海外に行くと必ず各場所のスーパーマーケットを訪れます。そこには様々な商品が一堂に集められていて、各国の生活の様子が簡単にうかがえると思うからです。今回、私たちがよく行くわけではない高級スーパーであるとはいえ、香港の City' Super に行くことができる機会があると知り、私は上記のような興味本位な理由で City' Super での職業体験を希望しました。

2. Job Shadowing の内容

・レクチャー形式のお話

1日目、2日目の午前は、City' Super の各事業担当の方から、企業のコンセプトや戦略などについて話して頂きました。商品の安全性・質・在庫管理・差別化、商品を売るにあたっての環境、サプライチェーンなど、様々な角度からスーパーマーケットの営業についてとらえることができました。



LOG-ON に関するレクチャー

・Job Attachment

1日目の午後は City' Super、2日目の午後は LOG-ON (City' Super 系列の雑貨屋さん) の現場に実際に行き、Job Attachment と呼ばれる職業体験をさせていただきました。1日目はチーズ売り場に立ってチーズの試食をすすめる体験をし、2日目は LOG-ON 店内を見て回りました。いかにして客を引きつけるか、ということを考えさせられました。特に2日目は、日本にないような店内の仕組みを観察し、新たな発見をすることができました。

・イベントの見学

3日目の午前には City' Super が主催している「Summer Fiesta」と呼ばれる City' Super 会員のためのイベントを見学しました。会員を会員として確保し続け、来店をリピートさ

せる努力、また非会員を会員にしやすくするシステムなどを、実際に聞いたり見たりして感じることができました。



Summer Fiesta 実施中の店内



英語での最終発表

- ・プレゼンテーション

3日目の午後は、これまでに学んだことを各自でまとめ、City' Super の方に対し英語で15分ほどのプレゼンテーションを行いました。そして、プレゼンテーションの後は、City' Super の方から今後のプレゼンテーションのためになるアドバイスをいただくことができました。私の場合、英語でのプレゼンテーションが初めてであるばかりか、パワーポイントを使うこと自体に慣れていなかったもので、良い経験になりました。

3. 感想

4月から商学部生として経営などについての勉強を始めていましたが、今回実際にCity' Super や LOG-ON を見学してみて、それらを体系的に学べたという実感を得ることができて非常に満足しています。また、前述したとおり、私はスーパーマーケットが好きですが、その裏の現場まで見学できたことでスーパーマーケットにますます興味を持つことができました。これから学ぶこと全てが経営に関係あるとは言えないかもしれませんが、今後の勉強のモチベーションアップにつながったというように感じます。さらに、西洋人や見た目の華やかな人が多いなど、City' Super の高級スーパーらしさも感じ、ローカルスーパーとの違いも認識することができたことも良い経験でした。

このような貴重な経験をさせてくださった City' Super や LOG-ON の関係者の皆様、その他の関係者全ての皆様に感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

Job Shadowing (City' Super)

文責：萩野雅彦

1. 研修内容

私(萩野:商学部4年)と関さん(商学部1年)は、City' super グループにお邪魔して3日間の Job Shadowing を実施しました。

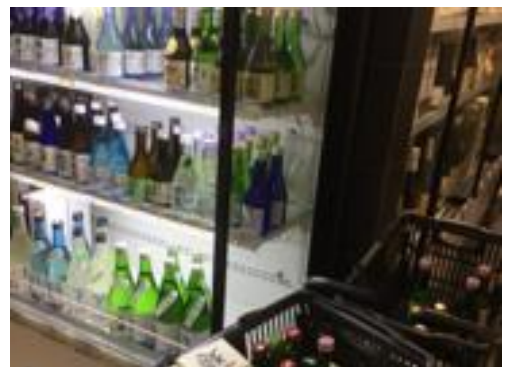
初日は City' super について学習しました。City' super は一般のスーパーと違い、ハイエンドなお客さんをターゲットにした、海外商品などの高付加価値商品が充実したスーパーマーケットです。午前中には店舗のオペレーションについて実店舗の裏側まで見せてもらいつつ、午後の Store Attachment では Harbour City の実店舗でお手伝いをさせていただきました。私はワインセラーで、もう1人の研修生の関さんはチーズ売り場の店頭に立ちました。

2日目は同グループの別店舗で、雑貨屋さんである LOG-ON について学習しました。現地でマネージャーをしている日本人の久保さんからお話を伺いました。午後から Store Attachment として、九龍塘にある店舗にて実店舗を視察しました。実際に体験を重視する店舗づくりを直接感じることができました。店員さんはお客さんと会話することによって、お客さんが商品から得られた体験や感想を汲み取ることができました。

3日目はサプライチェーンや品質管理についてのレクチャーを受けたのち、学習内容のプレゼンテーションをしました。3日間の総まとめとしてパワーポイントを用いて発表し、内容やプレゼンテーションの仕方に対する詳細までフィードバックをいただきました。

2. 感じたこと

LOG-ON の内装が、実に顧客目線に作られていると実感しました。商品やその情報を客に「与える」のではなく、客から「学び、需要を引き出す」ための施策がなされていることに感心しました。例えば、お客さんの通りが多い通路にどの商品を露出すれば立ち止まりやすいかを考えたり、時期に合わせて配置を変えたりしています。



たくさんの日本酒が売られる店内

また、City' super 内にはたくさんの日本酒が売られていることに私は驚きました。それだけ香港での関心、需要が高いことを示しています。

実際に store attachment で商品陳列をお手伝いしていたときも、多くの香港人の人が日本酒を眺め、商品を手にとっていました。

また、LOG-ON の現地スタッフと話した際に、彼らが日本についてとても詳しく、驚きました。「和歌山なら行ったことあるよ!」「今度鹿児島に旅行するんだ」などと言っている姿に、感銘を受けるとともに、これまで私自身が日本国内で感じていた「外国人からみた日本のイメージ」に、違った視点が加わったと言えます。

今回の研修で、香港の現地民の関心を直接感じられただけでなく、小売という消費者に一番近い業界の戦略やマーケティングについても考えることができました。よい商品売るだけではなく「届ける工夫をする」ことがいかに大切かを学べた三日間となりました。我々の研修を支えてくれた関係者の方々、本当にありがとうございました。

柱二 忘れられない香港の味

文責：稲葉りお

『神は仰せられた。「叉焼飯あれ。」すると叉焼飯があった。（創世記 1:1~3）』

「叉焼飯」というのは香港でならどこでも食べられるローカルフード。「蜜汁叉焼」をご飯にのせ、醤油ベースのタレをかけたものです。（蜜汁！これだけで暴力的に美味しく！）

香港の叉焼は、日本のチャーシューよりもかなり甘みが強いのが特徴です。HK\$50 程度のお手頃価格でこの世の極楽を味わうことができます。ご飯の上に乗せるロースト肉はアラカルトなのですが（他にもガチョウやカモ、鶏がある）、滞在二日目に叉焼を試して以来、ほぼ毎回叉焼を食べていました。飲茶！点心！エッグタルト！…もいろいろ、香港を訪れた際はぜひ叉焼飯を召し上がってください。

ちなみに、一番美味しいと感じたのは、フードコート「大快活」の叉焼飯。フードコートなので高級な肉を使っているはずもなく、一体何が美味しいのだろうと他と食べ比べて考察したところ、「大快活の叉焼はより一層味が濃く、ソースが多いから」という結論に落ち着きました。味の濃さ>肉の品質だったわけです。お正月格付けチェックなら一発退場ですね。

ドンマイ！



大快活の叉焼飯（確かにご飯がひたひたになるほどソースがかかっている）



李錦記の叉焼飯の素（好きすぎて買ってしまった）

出典：<https://www.hongkongnavi.com/special/5001025>

Job Shadowing at かね善

文責：遠藤杏奈

香港について初めの3日間は Job Shadowing をした。Job Shadowing とはなかなか秀逸なネーミングで、私と小森さんは3日間仕事の現場について行き、それについて質問も交えながら色々な事を見て学び取った。

私たちが訪問させていただいたのは、かね善香港。かね善香港は主に業務用の日本の食料品を香港に輸入して売る仲卸業者である。日本人は英語が完璧でないと英語を使ってはいけないという先入観を持っている人が多く、英語が達者でないのに英語でビジネスを



商談風景（1日目）

することはとてもハードルが高く感じるという。そこにビジネスチャンスを見出し、香港の現地の方を雇って日本の食品を代わりに香港に売り込もうと思い、香港支社を立ち上げたと、今回私たちを受け入れてくださったOBの岡田副社長は話した。

主な活動内容は、かね善と取引先の商談の見学、取引先や日本商品を取り扱っているお店の視察、倉庫の見学、日本から

持って行った自分が興味深いと思った商品のプレゼンテーション、社員の方々との情報交換などである。また、岡田副社長とお話をさせていただく機会も多く、とても貴重な話が聞けた。普段の仕事は取引先を開拓したり、商品の売り込みを行ったり、年2～3回湾仔コンベンションセンターで行なっている展示会に向けて準備を行ったりしているそうだ。かね善が仕入れている商品の試食も行った。商品の味によって顧客にどのようにして売り込むのか、例えばカレーの場合具材を煮込んで使うのか、そのまま提供してもらうのか、が変わってくる。また、味によって商品名を変更して売り込んだり、売り込むターゲットを考え直して販売したりするという。食べ物を売り込むにあたり、売る人が味を知って本当に美味しい



スーパーマーケットの視察（2日目）

と、思って戦略を立てた上で売り込まないと売れないことが実体験としてわかった。また、戦略を立てる上でその地域の人々の味の好みを知らないと売り込むことが難しいことがわかった。

メインイベントは私たちが日本から持って行った香港人に紹介したい食べ物のプレゼンテーションだった。その時はオフィスにいた人たちが全員出てきて私と小森さんのプレゼンテーションを真剣に聞いてくださった。持って行った食べ物で日本に詳しい彼らが知らない味のはあまりなかったが、日本の独特なパッケージングに興味を持った方が多かった。やはり、同じ食べ物であっても見た目やイメージ、提供方法がその感じる味を大きく左右することが再確認できた。個包装なのか大袋に入っているのか、保存期間や名前、値段でさえもがそのものの印象を左右することがわかった。



かね善の商品を保管している倉庫（3日目）

Job Shadowing では授業で学んだことが実物となって動いていることが非常に面白かった。また、理論がどのように応用されているのかを発見することも楽しかった。しかし、私にとって最も有益だったのは、香港の社会人とたくさん話せたことだ。彼らのビジネスに対する姿勢やマインドセットを伺えた。ビジネスは基本ドライで、よほど仲が良いところでない限り就業時間後

と一緒に晩御飯を食べることは稀だそうだ。また、商談も簡潔で、前置きや世間話は挟まずに本当に大事な要点だけを話すそうだ。

そして、転職に対しても抵抗はなく、転職する方が多いそうだ。その場にいたインターンの学生とも話すことができ、香港の習慣や香港人としての考え方が聞けたことがとても貴重な体験だった。

Job Shadowing を通して私は大学で経営を勉強することの意味を再確認し、自分の他人と話す力と英語力に自信がもてた。Job Shadowing の段取りをしてくださった方々と受け入れてくださったかね善香港の方々に本当に感謝しています。

Job Shadowing (かね善)

文責：小森景光

(1) 「かね善」での Job Shadowing

2018年7月30日から8月1日の計3日間、「矩善香港食品有限公司」（以下、「かね善」と表記する）にて Job Shadowing をさせていただいた。

香港の「かね善」のオフィスは、Kowloon 地区の Kwun Tong という街にある（Kwun Tong は、ホワイトカラーとブルーカラーの人々が約半数ずつ存在するタイプの街である）。この Kwun Tong のオフィスは、多くの企業が集まるビルの6階フロアの一角にあり、決して広いとは言えない。しかしながら、食品の卸売りを専門とし、情報力を武器とする「かね善」にとっては、むしろ香港全土が仕事場であり、オフィスは単にその中継地点であると言っても過言ではないだろう。

今回の Job Shadowing では、レストランへの営業の見学、試食会への参加、スーパーマーケットにおける取り扱い食品の調査への同行、貸し倉庫の視察など、さまざまな貴重かつ興味深い体験をさせていただいた。どの体験においても、自分の知識や経験の不足を痛感し、また、仕事の各場面においてメリット・デメリットを正確に把握する能力がいかに必要かを実感することができた。もっとも、本報告においては、その内容を時系列に沿って長々と記述するよりも、むしろ、今回の研修を通して学んだ、今後の日本と香港の「食」というマーケットにおいて重要だと思われる2つのポイントについて簡潔に述べたい。



カレーの試食会（2日目）

(2) 香港における日本の食品に対する関心

初めて香港を訪れた日本人は、スーパーマーケットや商店で売られる日本の食品の量の多さに驚くだろう。極端な例を挙げれば、日本の食品を専門に販売しているわけではない店舗であるにもかかわらず、1つの棚のほとんどのスペースが日本の食品で埋められているという光景を目にすることもある（ただし、日本の食品と日本語表記のあるフェイク商品とが混在しているケースも見受けられるため、十分注意が必要である）。

日本の食品の安全さや繊細さが評価され、香港における日本の食品への関心と需要は今もなお高まり続けているのである。ただし、いかに日本の食品が支持されたとしても、日本国内でそれらを購入するのと、香港でそれらを仕入れるのには、圧倒的な情報量の格差が存在する。その隙間を埋めるべく、情報を提供するのが「かね善」のビジネスの1つである。倉庫や輸送手段を有することなく、情報力を武器にすることはまさにこのことである。もちろん、香港という土地自体が広大ではなく、700万人という人口の規模も決して大きいわけではないため、日本の食品への需要が青天井だと言うことはできないが、現在広まりつつある民主化の動きや日本に勝るとも劣らない健康ブームを考慮すれば、このマーケットが衰退することは、現時点では想定できないだろう。

(3) 「食」と「エンターテインメント」の交わる場所

極限的な状況においても必要不可欠な「食」と、ある程度安定した環境が整備された上で需要が発生する「エンターテインメント」は、一見別個のマーケットであると思われる。確かに、日本のように、両者を結びつけて新たなビジネスを形成する例もあるが、香港を訪れる前は、それが日本やアメリカ、イギリスなど一部の地域のみで成功している商法だと考えていた。

しかし、香港でも、「食」と日本発の「エンターテインメント」が交差するマーケットが存在することを確認することができた。具体例としては、コラボレーションカフェやキャラクター製品（食品）などが挙げられる。香港のテレビで多くの日本の番組を視聴できること（アニメや音楽番組、ドラマなど）や、日本の映画・漫画作品などが香港で浸透していることも影響し、都市部の規模の大きいショッピングモールでは必ずと言っていいほど、日本のアニメやキャラクターをテーマとしたコラボレーションカフェが展開されている。また、「かね善」の社員の方から、キャラクター製品の需要は高いが、デザインや販売方法について、さらなる改良が必要ではないか、というお話をうかがうこともできた。

個人的には、「エンターテインメント」の業界・職種に強く関心があるため、香港の「食」のマーケットにおいてもなお、いっそう「エンターテインメント」が介入できるという事実を実際に知ることができ、力づけられるとともに、さらに日本が香港において経済的に開拓できる余地があると感じた。

(4) まとめ

「かね善」が、川の流れにたとえるならば、開発・生産・製造といった「上流」部分と、販売・提供といった「下流」部分をつなぐ、卸売りという「中流」部分に拠点を構え、情報と信頼を重要視している商社だったからこそ、今回の Job Shadowing を通じて、香港の

「食」の現状をリアルに観察し、全貌とまではいかななくても、その一部を理解することができたと思う。さらに、若い社員の方やインターンシップで勤務している学生の方から、独立や香港人としてのアイデンティティといったかなり踏み込んだお話までうかがえる機会があり、出発前から抱いていた疑問のいくつかが消された。

そして、なによりも、岡田善靖副社長の「コミュニケーションをとる上で、伝えるスキルも大切だが、それ以上に、何を伝えたいか、その内容が重要である」というお言葉が心に残った。真にグローバルに活躍するために必要なのは、自分自身を豊かにし、かつ、相手の立場を想像し、理解しようとする能力である。今回の学びと経験を将来につなげていくのみならず、日々の生活に生かしていきたいと強く思った。



社員さん、インターンシップの学生さんとともに

Job Shadowing at 香港角川

文責：稲葉りお

研修内容

・ 1、2日目→ACGHK2018(場所:Hong Kong Convention & Exhibition Center@灣仔)でのスタッフ体験。KADOKAWA の社員さん、アルバイトの方々と一緒に、KADOKAWA のブースでのスタッフ体験を行った。1日目の主な活動は、待機列の動線誘導をしながらのビラ、カタログ配布。2日目はブース内での活動。

・ 3日目→香港 KADOKAWA のオフィス見学、書店周り。

KADOKAWA 社員の太田さんから、香港 KADOKAWA の企業理念、海外戦略、活動などの紹介を受けた。午後は社員のフェリックスさんに連れられ、旺角の書店（動漫世界 Manga shop など）を回った。

研修の成果

・ 日本のサブカルチャーの人気について

ACG に関わった二日間で感じたのは、海外顧客の日本のサブカルチャーに対する熱量の大きさである。KADOKAWA のライトノベルや漫画を出品したブースには、イベント終了時刻間近まで、長蛇の列ができており、改めて日本のサブカルチャーの人気具合の凄まじさを知った。書店巡りの際も、日本でも新刊として売られているものが、普通語で売られていることに衝撃を受けた。日本の、特に若い世代が日々更新する文化をリアルタイムで発信していくことが求められていると感じた。

・ 香港 walker の失敗と復活

現在は香港でナンバーワンの売り上げを誇る日本の紹介雑誌「香港 walker」だが、そこまでには大きな二つの挫折があった。

一つ目は、「香港の都市情報雑誌としての失敗」である。現在の香港 walker は「日本人による香港人のための日本の紹介雑誌」である。これは、当初、「東京 walker」に倣い、香港 walker で香港の観光地や料理店を紹介したところ、全く売り上げが上がらなかったため、方向を転換したためである。確かに街中に出てみると、客の行列ができていたような場所はまれであったように感じる。雑誌で紹介されたものをありがたがり、全員が話題のスポットに殺到する傾向のある日本人に対し、行列を嫌い、目的の実行のみを目的とする香港人の価値観に合わせ、雑誌の方向性を大転換したのである。

二つ目は、「日本人の目線にこだわりすぎた失敗である」。香港 walker が日本の紹介雑誌になった後も、売り上げの低迷は続いた。そこで香港 KADOKAWA は、編集長を日本人から香港人に変え、単なる「東京 walker の翻訳雑誌」を出版するのをやめた。すると売り上げが劇的に向上したという。興味深いエピソードとして、「神戸の海苔業者」の話がある。ある月、香港 walker を作成した際、香港人の編集長は、神戸の海苔業者の紹介にこだわり、海苔の天日干しの写真を、見開き1ページで掲載した。太田さんは心配したが、彼の目線を尊重し、採用した。その後、香港 walker を見て神戸の海苔業者の元を訪れる香港の人々が増加した。香港の人々には、日常的に食べている海苔の製作過程が興味深く映るらしいが、これは日本人には決して気づくことができない成功例である。

上記のように、「香港 walker」は、日本人視点で香港でのニーズを決めつけたことで失敗を味わい、しかし、日本人視点へのこだわりを捨て、顧客の目線に立ち直ることで成功を収めたのである。

Job shadowing を通じて

ACG や香港 walker 製作秘話などを聞いて感じたのは「外国に出てみないと分からないことがある」ということである。私は日本人で、国内にいただけではどうしても日本人としての思考法の枠組みから逃れることはできない。今回香港 KADOKAWA で Job shadowing をさせていただいて気づいたことは、日本文化は、日本人の思ってもいなかった角度でニーズがあるということだ。情報発信は、発信だけでなく受信する側がいなければ成立しない。そして、受信側がどんな情報に魅力を感じるかは、日本人の思考の枠組み内で考えていたならば、決して分からないことである。自分のような若い世代が日本の情報を発信する役割を担うとすれば、日本について、そして同じくらい、情報を受信する国の文化、価値観、経済状況等への知識を深めることが必須である。



スタッフ体験の際のイベント会場にて

また、研修で出会ったほとんどの人々が、普通語（北京語）・広東語・英語・日本語を話していた。一方自分は英語で質問されても聞き取ることができない場合が多くあり、自分の言語力の低さを痛感した。研修中は日本人以外とも積極的に会話をし、少しでも言語力を向上させたいと感じた。

Job Shadowing (香港角川)

文責：小西一葉

1. 1、2日目～ACGHKでの活動～

香港では、2018年7月27～31日に Hong Kong Convention & Exhibition Centre という巨大展示施設で「ACGHK 2018」というイベントが開催されていた。ACGHK とは、Animation、Comics、Games などのクリエイティブでデジタルなエンターテインメント分野における展示会かつビジネスの交流プラットフォームである。12～30歳をターゲットとし、来場者は万人にも上る、非常に活気のある熱いイベントである。角川は出版社であり多数の書籍や漫画、ライトノベル等を販売しているため、今回の ACGHK にも出展ブースを構えていた。始めの丸2日間、私たちは ACGHK の角川ブースで他のアルバイトの方々と一緒にビラ配りやお客さんの補助を行った。他のスタッフとは違い飛び入りで業務に参加したため、商品の場所や在庫数などお客様に質問されても何も答えることができず（そもそも言葉がわからず）すぐに他のスタッフを呼ぶしかなかったため、ブースの狭さも相まってだんだんそこにいることさえ申し訳なく思い始めてしまった。もう少し何か力になれることを見つけられたらよかった。しかし、スタッフとして間近でファンの熱を感じられ漫画やアニメ領域の文化の力の大きさを改めて認識することができた。

2. 3日目～香港角川のオフィス見学と書店見学～

Job Shadowing 最終日は前半に香港角川のオフィスを見学し、後半に書店を見学した。

オフィス見学では、香港角川を含めた角川の企業説明をしていただいた。担当してくださったのは香港角川の太田さんである。角川の DNA は”若い力の文化力”であり、それは今も変わらずに商品提供の際の核となっている。また、雑誌を売りながら映画を放映しながら…と様々な形態のメディアを同時進行で提供していくメディアミックスという方法をとっている。海外戦略にも力を入れていて、現地の国営企業と提携し



香港 KADOKAWA の海外戦略に関する
レクチャーを受ける

て支店の展開を行っている。香港角川について限定すると、広東語で書籍を製作するのは高コストであるため、台湾角川から輸入して販売している。またイベントが多数開催され

るためそこでの売り上げも角川の売り上げに大きく貢献している。印象に残ったのは香港 Walker の製作秘話である。香港 Walker は、その名称とは裏腹に日本の情報を掲載した香港人向けの旅行雑誌である。かつて香港 Walker は香港情報を掲載していたが、香港人に受けるのは香港の情報ではなく日本の情報であつたらしい。また、紙面の写真で強調される日本の風景は観光名所ではなく、日本人にとっては些細な風景であるという。人も建物も過剰に密集したある意味ストレスフルな香港では、日本のほっとする風景が受け入れられるのだそうだ。つまり香港 Walker は、日本人視点ではなく香港人視点からみた日本が取り上げられている。最も驚いたのは、日本に来る香港人旅行者は、他国・他地域に比べて来日リピート数が非常に多いということである。10 回以上来たことがあるという人の層がある。その理由は、太田さん曰く日本が観光地としてハズレがないからだという。日本は香港から近く、おもてなしの精神で高い質のサービスを提供し、料理も美味しい。確かに満足感が高い観光地であるといえそうだ。これからもさらにリピーターを増やしていくために、香港が日本の食材の最大の輸出先ということを活用し、美味しい日本の食材や和食で香港人を日本に呼び込む、というサイクルを回す重要性を強調していた。

書店見学では、アニメイトや街の書店を多数見て回ったが、日本の書店と変わらない様子だった。

3. 感想

2 日間のスタッフ体験中、私たちと同年代の他のアルバイトの人々と交流したのだが、驚いたのは日本語を少しでも話せる人が多いということだ。漫画やアニメなどはその内容の面白さだけでなく、他文化を学ぶきっかけになる点でも非常に有益である。原作のモデルになった場所を巡るツアー企画は、漫画やアニメを手段に観光に結びつける好例であると思う。今後もますます多くの人々に支持されていく市場であるが、私はこの分野にあまり詳しくないので今回のビジネス研修をきっかけにして色々な作品に触れてみたいと思った。

Job Shadowing at ABC Cooking Studio

文責：中牟田雪奈

わたしは山田さんと一緒に ABC Cooking Studio の香港店にビジネス研修に行きました。ABC Cooking Studio といえば斬新なスタイルのお料理教室として日本全国に展開していますが、「世界中に笑顔の溢れる食卓を」提供することをモットーに最近アジア各地に進出しています。香港では、お料理教室は勿論、日本産の食材や製品を紹介するイベントをたくさん開催し、何度も旅行に行くほど日本大好きな若い女性層を中心に人気を集めているようでした。

3 日間お世話になったのは、香港支部社長の田丸れいなさん。仕事に対して凄くパワフルでしゃきしゃきされている方でした。田丸さんの下で、最初の 2 日間は ABC Cooking Studio が最近開催したイベントの報告レポート作成のお手伝いを、3 日目は岡山県産の白桃を使ったパフェの試食会イベントのお手伝いをしました。

以下、わたしが Job Shadowing 中に感じたことをまとめていきます。

一つ目は、日本産の食品のブランド力の高さです。3 日間オフィスで作業していただけても、白桃・葡萄・いちご・寿司・すき焼き…ABC Cooking Studio で扱われていた多くの日本の食べ物の名前を目にしました。こうした日本の食べ物は高価でありながらも、贈答用などとして香港人に大人気だそうです。特に福岡のあまおうは有名で「いちご=あまおう」が浸透しているようです。しかしながらも、農産物は地方自治体が PR の主体であるため、まだまだ広報力に欠けるという現状も知りました。ABC Cooking Studio はこうした点や、近年の香港でもコト消費の需要が高まりつつあることに着目して、日本産の食材を使ったお料理イベントを頻繁に開催していました。そういった状況を間近に見るなかで、まだまだ日本のプロダクトは世界に売り出す可能性を持っているし、社会のニーズに敏感になりながらビジネスを行うことの重要性を学びました。

二つ目は働く環境の充実度は重視すべきということです。オフィスからは、ABC Cooking Studio のお料理教室がガラス越しに見える状態で、受講生とインストラクターが楽しそうにお料理を作っている様子や、通りかかった人が笑顔でお料理を眺めている様子が間近に見えました。こうして自身の携わっている商品やサービスが、間近で使われ喜ばれていることを実感できる環境はとても素敵だと感じました。また、ABC Cooking Studio で働いている社員さんや教室のインストラクターは、とても伸び伸びと明るく仕事に打ち込んでいるようでした。服装は自由で、昼はみんなで飲茶、パソコンを叩きながら適度におしゃべりをして、18 時には必ず帰りました。職場環境は自分の生活の満足度を定めるこ

とを肌で感じました。たった 3 日間だけでしたが、働くとはどういうことなのか、何を大切に働くべきなのか、私なりの応えが見えたような気がしました。

以上、ABC Cooking Studio でのジョブシャドーイングレポートになります。3 日間お世話になった田丸さんはじめ香港支部の方々、一緒に活動した理子さん、ありがとうございました。

Job Shadowing (ABC Cooking Studio)

文責：山田理子

● 1 日目 (10:00-17:00)

午前：会社説明

午前中は社長の田丸さんとお会いし、企業理念や事業内容についてのお話を伺いました。衝撃的だったのは「ABC は料理教室ではない」という田丸さんの一言。受講生に料理スキルを伝授する場ではなく、人々の「コミュニケーションのプラットフォーム」となるスタジオでありたい、と語る田丸さんの情熱に圧倒されました。ABC Cooking Studio が地方自治体・企業とタイアップしたイベントを頻繁に開催しているのも、料理を共通項とした人々のつながりを生み出すための試みであることに気づかされました。

ランチ

お昼に田丸さんに連れて行っていただいたのは、ローカル感あふれるワンタン麺の人気店。お店に向かうと長い行列ができていたものの、回転が驚くほど速くほとんど待たずに入店できました。香港では日常だという相席で食事を楽しんでいるとき、まだ食べ終わっていないうちにお皿を下げられるというハプニング発生。日本ではありえない出来事に驚きましたが、注文から会計に至るまでスピードを追究するローカル飲食店の雰囲気を肌で感じることができました。



ランチで食べたワンタン麺

午後：報告書作成

午後の活動は、ABC Cooking Studio が過去に開催したイベントの報告書を作成することでした。私が担当したのは「京都・舞鶴の PR イベント」。社員の方からイベントについての情報をいただき、舞鶴市に提出するための報告書作成を任せてもらいました。

● 2 日目 (10:00-17:00)

午前：報告書作成

1 日目に引き続き、イベントの報告書作成に取り組みました。私の横でサポートしてくださった Karman さんは広東語・北京語・英語・日本語を自在に操るマルチリンガル。複

数の言語が飛び交うオフィスで仕事の雰囲気を疑似体験できたのは、とても貴重な経験となりました。

ランチ

社員の方々とともに飲茶を楽しみました。食べる前に備え付けのお湯で自分の食器を洗うこと、平たいお皿を取り皿として使っ
てはいけないことなど、広東料理独特の食事マナーをたくさん教えていただき、初めて体験することの連続でした。また、全員では食べきれない量の料理を頼むのがよしとされる一方で、余った料理をお店のトッパーに入れて持ち帰るシステムが確立して
いて、形式的な慣習と実のバランスがとれている点が非常に興味深かったです。



ランチの飲茶（社員の方々とともに）

午後：報告書作成

2日間かけて作成した報告書を田丸さんや Karman さんに提出し、フィードバックをいただきました。

● 3日目（16:00-22:00）

1・2日目のオフィスではなく、この日は実際のクッキングスタジオに伺い、ABC Cooking Studio が主催しているイベントのお手伝いをしました。開催されていたのは岡山の桃を香港の人に PR するイベントでした。1個2,000円もするという桃をふんだんに使った「白桃パフェ」を参加者に作ってもらい、見た目の美しさや飾りつけの独創性を評価して優勝者を決めるというコンテスト形式のイベントでした。驚いたのは、クッキングスタジオに通っている一般の受講生以外に、KOL（Key Opinion Leader）が多数招待されていたこと。



白桃パフェ

フォロワー数万人を誇る香港の有名インスタグラマーにパフェ作りを体験してもらい、その様子を SNS で発信してもらうことで、岡山の魅力をたくさんの人に伝える場を作ってい

るとのことでした。田丸さんが初日におっしゃっていた「コミュニケーションのプラットフォーム」という言葉を体現するかのように、スタジオに集まった人たちは皆とても生き生きとして、心からイベントを楽しんでいる様子。「あなたのその飾りつけセンスある！」「桃をそうやってカットするのね、素敵！」と受講生同士の交流が活発に行われていたのが印象的でした。

【中国語プログラム】

文責：流真理子

1. プログラム概要

私たちが参加したのは、香港中文大学で毎年開催されている Summer Program です。7月の July Session と 8月の August Session があり、8月の方に参加しました。プログラムの期間は3週間で、月曜日～金曜日に中国語の授業があります。

2. クラス分け

渡航前にオンラインでプレイスメントテストを受けることによってクラスが振り分けられます。レベルは4段階あり、下から順に Lv.1(Lower), Lv.1(Upper), Lv.2, Lv.3 となっています。同じレベルでも、人数が多い場合は複数のクラスに分かれます。1クラスにつき、約20人の学生がいました。

3. 授業

月曜から金曜に行われる授業は、午前が 9:30～12:15 で単語と文法のクラス、午後が 14:30～17:15 でオーラルのクラスです。先生は午前と午後で各1人です。私が所属していた Lv.2 では、単語と文法のクラスは、教科書の例文を読み、新出単語や文法を教わります。時にはその単語や文法を使って作文を作る時間が与えられ、先生に添削してもらうこともあります。45分ごとに約15分の休憩が入ります。一人ずつ例文を音読したり、作った作文を発表したりするなど、一度の授業につき必ず一回は発言する機会が設けられました。2日に一度は授業の冒頭にテストがあり、それまでに習った単語や文法が出題範囲です。先生は教室のスクリーンにパワーポイントのスライドを映して授業をします。

オーラルの授業では、その日の午前に習った単語や文法を使って話す練習をします。オーラルの授業は1人につき1台PCがある教室で行われますが、そのPCの画面に映された単語を答えるクイズや、絵や図を見せられてそのシチュエーションにあった文章を作るといったものが中心です。隣の人や班の人と一緒に作業する機会が多くありました。オーラルの授業でも、文法のテストの日とずれるようにして、2日に一回テストがあります。それまでに習ったシチュエーションに関するリスニングクイズで、選択肢の中から正しいものを選ぶ方式でした。

4. 課題

午前も午後も、どちらの授業も課題が出ます。午前の授業は、プリント 1 枚でその日に習った単語と文法を使って作文をするというもの、午後の授業はオンラインでリスニングクイズに回答するというものがほとんどでした。締切は大体授業の 2~3 日後に設定されます。課題の提出状況や出来具合も、成績評価に反映されます。毎日午前か午後の授業のテストがあり、課題も出ているため、授業後は短い時間でも必ず予習・復習をしていました。

5. 参加学生

August Session は、日本の夏休みの時期と重なるため、参加学生の 5 割は日本人でした。一橋大学の他には、学習院大学、上智大学、京都大学、広島大学などの学生が参加していました。海外からの学生も、欧米やインドなど様々な地域から集まっていました。



授業中の理子ちゃん

【観光情報】

私の好きな街、大埔

文責：櫻田將人

大埔墟駅下車徒歩 5 分。A 出口を出て右側、屋根のある通りをまっすぐ進み、突き当りを右に曲がって高架橋をくぐると、それは突然姿を現す。駅前アパート街の閑静さの中にあって、異様な熱量を放っている一区画。大埔墟（Tai Po Market）。

大埔墟の最大の魅力は、大学駅から MTR で一駅という近場にありながら、活気あふれるマーケット、そこに息づく香港の人々の暮らしに直に触れられることだ。筆者もこの町の虜の一人である。ここでは大埔墟の見せる様々な表情を写真とともに紹介する。昼休みや放課後に、ぷらっと立ち寄ってみてほしい。



通りを囲むアパート



活気に満ちた商店

● 露店・商店

活気づく通りの両側をすすけたアパートが囲み、その裾にはバラエティー豊かな露店がびっしり。典型的なマーケットの風景である。香港の露店街が放つ独特の色香、喧騒を味わいながら買い物を楽しむことができる。果物や精肉などの生鮮食品から、漢方やパン、

生活雑貨まで様々なものが売られている。物価も都心部や大学内のスーパーより割安。お土産を探しながら歩くのも楽しい。キュートな猫がお出迎えしてくれることもしばしば。

- **大埔綜合大樓**

高架橋をくぐってすぐ左手にある、斜めにせり出した近代的な建築。中には、生鮮食品の店が碁盤の目状にぎっしりと並んだ市場が広がる。フックにつるされた豚足やハトのロースト、檻の中でじっとしているカエル、ピチ



大埔で暮らす猫



大埔綜合大樓

ピチと暴れる鮮魚たち、それを慣れた手つきで捌く店のおばちゃん…。豚の血液のキューブなど、日本では絶対に見られないような食材も並んでいる刺激的な市場だ。2/F（日本でいう3階）はフードコートになっており、地元の人たちで賑わっている。



市場で売られる鮮魚



カエル入りの粥

- **Welcome**

お安いスーパー。香港市民の、そして留学生の味方。香港各地に展開しているが、中文大から最も近いのはおそらく大埔の店舗である。毎日の朝食や、バラマキ土産を買うのに最適。

- **大明里廣場**

大埔墟の中心部にある4つの露店通り。それらが交わる場所に、小さな公園がある。新聞やスマホに目を落とす人、露店の食べ物でランチを楽しむ人、酒やタバコ片手に世間話に興じる人…。ベンチに腰かけて、街の音に耳を澄ませてみるのも良いかもしれない。

- 飲食店

大埔墟には、雰囲気ある老舗から、新しいおしゃれなお店まで、飲食店がたくさん立ち並んでいて目移りしてしまう。美味しいお店を見つけるには、自分の嗅覚を信じるのが一番だが、地元民御用達のアプリ「OpenRice」もおすすめ。筆者のお気に入りには、陳漢記の田雞粥（カエル肉入りのお粥）、群記清湯腩の牛肉麵だ。ぜひチャレンジして欲しい。

- 文武二帝廟

文化財に指定された歴史ある廟。地元の人たちが熱心に参拝している。赤を基調とした装飾品、渦巻き型の巨大線香など、典型的な香港の寺院の雰囲気が楽しめる。あまり観光地然としていない、静かな廟だ。日暮れの割と早い時間に閉まってしまうようなので、昼間に訪れよう。



↑文武二帝廟の門（左）および廟内（右）↑

- 東美堂

筆者お気に入りのお店。文武二帝廟のある富美街に店を構える。主に日本製品（お菓子、洗剤、シャンプーなど）を扱っており、その品揃えに驚く。例にもれず看板猫が住み着いている。店長は英語で接客してくれたのでとても快適だった。余談だが、香港のローカルなお店では英語が通じないことが多いものの、ジェスチャーやカタコト中国語でどうにかなる場合が多い。北京語でも簡単なものなら大抵理解してくれる。中文大の学生と仲良くなって、大埔を案内してもらうのも良いだろう。



東美堂

- 林村河

マーケットの喧騒を抜けたところに、穏やかな川が流れている。この川の流が大埔の平野を作り出したのだろうか。川の北側には高層アパートが連なる住宅街と、埋め立ての工業地区がある。私たちが今回見学したヤクルトの工場も、大埔の工業地区に位置している。

大埔には、ここで紹介したほかにも、海浜公園、サイクリングロード、ショッピングモールなど、さまざまな魅力あふれるスポットがある。ぜひ足を運んで、あなたの大埔を見つけてほしい。



大埔で見られる様々な風景

黄大仙

文責：流真理子



黄大仙

太田先生のご親族の安産を叶えてくれたというありがたい寺院、「黄大仙（ウオンタイシン）」。大学駅から MTR（地下鉄）で 20 分ほどの、黄大仙駅にあります。中文大学が土曜日に実施して下さったカルチュラルアクティビティで行きました。日本の多くの寺院とは違って、色使いが鮮やかで参拝客も賑やか、さながらお祭りのような雰囲気です。入り口を進むと、華やかな鳥居と、干支をモチーフにした像があります。



頭上にはちょうちんがたくさん



干支の像（これは酉）

ここでの名物は、香港式の占いです（黄大仙だけではなく、香港のお寺には結構ありました）。たくさんのくじが入った筒を、跪いてひたすら振ります。386 回くらい振るとそのうち 1 本が地面に落ちるので、そ

の番号を記憶して近くの露店の人に頼むと、5 ドルくらいで占いの結果がもらえます。多くの学生が実際にこの占いにチャレンジしていました。見ているとやりたくなります。



くじが入った筒



振り振りしている杏奈

ちなみに私は「就職先は吉か凶か？」と念じて振りました。結果は、一言でいうと「あんたは良いお嫁さんになるよ！」というものでした。寿退社？



寿退社を示唆する占い結果



手相占いもあり（日本語ペラペラらしい）

「信じるか信じないかはあなた次第」ではありますが、実際に体験できるのはとても楽しいです。香港のビル群に飽きたらぜひ。

柱三 マカオ観光

文責：小西一葉

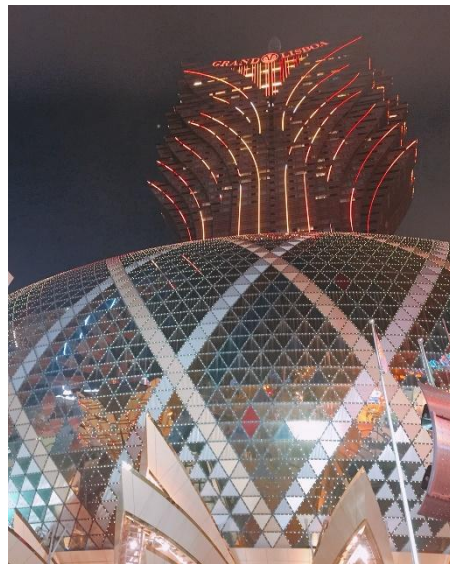
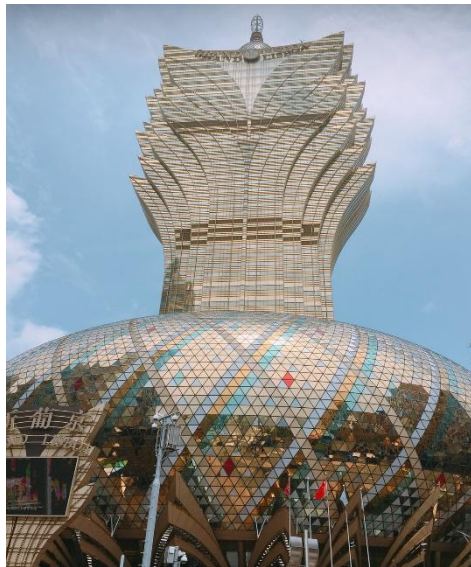
日曜日にマカオに一日観光に行きました。ゆきな主導の女子旅です。平日は勉強漬けなので筆者はこの日をとても楽しみにしていました。マカオの楽しさが伝われば嬉しいです。

マカオへは MTR 中環駅からフェリーで1時間ほど。フェリーのチケットは予約して買うと良いです。飛行機のような座席で、船の浮き沈みがかなり激しいです。酔いやすいというリコさんは酔い止めの薬を飲んでぐっすり眠っていました。

フェリー乗り場からバスに乗って繁華街へ。到着後目の前に現れたのは「グランド・リスボア」



フェリーの客席



グランド・リスボア（日中、夜間）

グランド・リスボアはマカオを代表するホテルで、中にはカジノも入っています。左が昼の姿、右が夜の姿です。どちらにしても派手の一言ですね。

次に訪れたのは、モンテの砦。いくつもの大砲が備え付けられた城塞跡です。小高い丘の上であり、マカオの街並みが 180 度見渡せて非常に眺めが良いです。近くにはマカオ博物館があります。



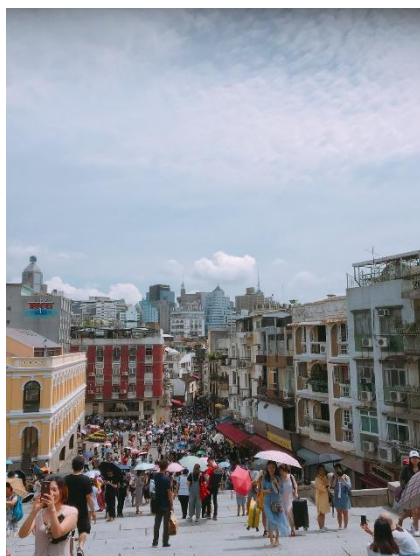
モンテの砦にて

続いて、世界遺産の聖ポール天主堂跡です。前壁と階段しか残っていないのですが、その存在感は圧倒的です。



聖ポール天主堂跡

下は聖ポール天主堂跡前の階段を登った高さから見た街の様子。香港の街並みとの違いが明白で面白いです。



そして聖ドミニコ教会。中に入ると階段で2階、3階…に上がることができて、展示場所として活用されています。教会内にそのような博物館のようなスペースがあるなんて不思議な感じがしませんか。



聖ドミニコ教会（外観、内部）

最後にマカオといえば！のエッグタルトです。Margaret's Cafe a Nata という有名店で購入しました。休日だったためかなりの行列ができており入手するまでかなりの時間がかかりましたが、焼きたての美味しいエッグタルトにありつけたので待った甲斐がありました。



エッグタルト

マカオはかつてポルトガルの植民地であったため、ポルトガル料理が食べられたり教会が数多くあったりとアジアというよりはヨーロッパ風な雰囲気があり、香港とはまた一味違った雰囲気が楽しめました。香港からは約1時間で行くことができるので、香港に行った際にはぜひセットで訪れて欲しいオススメの観光スポットです。

【個人感想】

香港短期研修を通じて

文責：稲葉りお

「大学時代に海外留学をなさい」と、両親から耳にタコができるほど言われてきた。その助言を以前まではうっとうしく感じており、今回の研修も、「とりあえず海外に行っておくか」という受動的な動機で参加したに過ぎなかった。そんな中で、香港という以前から興味のあった（とはいえ自分一人でなら訪れていたかどうかとも怪しいが）行先があったのは、本当に幸運だったと感じる。以下に、私が今回の研修を通して感じたこと・学んだことを大まかに「外国語学習」と「日常生活」に分けて懐述する。

・外国語学習について

CUHK の中国語教育は本当に素晴らしかった。特に、level1 の upper クラスを受講したことは、私にとって大きな意味をもった。中国語を始めて4か月ほどしか経っていなかった私にとって、upper のクラスはとてつもない苦しいものだった。そのため私は放課後、観光もせず、寮の自室に閉じこもって予習・復習に追われることとなった。これは海外留学として最高のあり方であると今なら言える。なぜなら、これこそが「留学」である！と思えることができたからだ。本来、留学とは異国の地で、外国語で学習するのだから、母国にいるよりも勉強してしかるべきである。大学受験後の「燃え尽き症候群」でぼんやりしていた自分にとって、必死に勉強するという行為は久しぶりであり、目が覚めた思いだった。自分のできないことと向き合い、それを克服する機会は、ありふれているようで貴重な。「留学」とはそのような状況に自分を追い込み、激烈に努力することなのだ、と実感した。

先生方の教え方も日本のものとは大きく異なった。日本の外国語教育（特に英語教育）は文法偏重であるのに対し、CUHK では文法をほとんど教えない。せいぜい構文の構成を軽く解説する程度で、午前中の授業はボキャブラリー、午後の授業は発声重視だった。日本式の外国語学習に慣れ切った私にとって、文法の体系的な説明がないことを不満に思うこともあったが、2週間目くらいから地元の普通語が聞き取れるようになっていて衝撃を受けた。正確に言うなら、「この単語は知ってる」「この単語は知らない」と識別できるようになった。それは、中国語が日本語と同じアジア圏の言語であり、さらに英語に比べて音節が聞き取りやすい、ということも一因であろうが、一番は実践に主眼をおいた授業のおかげであると感じた。CUHK では、ひたすら与えられた語彙を用いて作文したり、会話したり、しばしば先生の用意した模範的な文章を繰り返し暗誦したりした。実際に口に出したり書いたりすることで、ここまで効率的に新しい語彙を身につけることができるのだと痛感した。このように質の高い授業を提供してくださった先生方には感謝してもきれない。

・日常生活について

香港文化を体験するにあたって、不都合・不愉快に思ったことは一つもなかった。驚くべきことだが、カルチャーギャップはあっても、ショックは一回もなかった。食事、風景、インフラ、雰囲気、全てが恐ろしく快適だった。特に食事が肌にあったのがよかったと感じる。香港の食べ物はガイドブックの店から下町の屋台まで美味しく、最初の一週間目は一番気に入った「叉焼飯」（チャーシュー飯）を毎日食べていた。

また、「部屋にこもって勉強ばかりしていた」と前述したが、それは平日の話で、土曜日は中文大学の学生による香港のフィールドトリップ、日曜日は完全にオフだった。そのため私たちはある程度の時間を香港観光に費やすことができ、ガイドブックに載っている観光地然とした場所から、ローカルな町までも訪れることができた。

香港を観光するにあたって気づいたことは多くあるが、特筆したいのは、日本ブランドへの信頼の高さだ。日本国内にいとどうしても「日本はオワコン」という悲観的な意見が目立ちがちだが香港に行ってみて初めて、日本製品のブランド力を思い知った。特に印象に残ったのは、地元根差すスーパーマーケットに日本製品が多いことだ。お菓子や調味料、洗剤などは6割近くが日本製品であった。また、街中の広告でも、明らかに香港の会社なのにポスターに「の」という文字を用いることによって「日本製品感」を演出しているものもあり、非常に興味深かった。外国の現状も知らず、「日本はオワコン」といつて諦めるのは簡単であると思う。努力もしなくていいし、苦しむことも、責任も取らなくてよい。しかし、現実異なるのだ。もし、現在のブランド力を維持する努力を怠れば、それこそ「オワコン」になってしまうのではないかと喜びを感じるとともに、恐れと、私たちの世代の責任の重大さをひしひしと感じた。

香港のサービス業従事者は総じて愛想がなく、多少高級なレストランでも、皿を乱暴に片づけたりすることはよくあることだった。一方で、店員の態度を誰も気にせず、商品だけが売り買いされるというドライな空間は居心地よくもあった。日本の方がよいと感じる点、香港の方が優れていると感じる点。どちらも同じくらいあったが、重要なのは「来てみなければ分からなかった」ということである。たった一か月程度の短い期間で異文化体験ができたとは思わないが、少なくとも「日本とは異なるやり方がある」という思いは、この先日本国内でも、海外を訪れる際も有益であると感じている。

「人生の夏休み」ともいわれる大学四年間というのは、あまりにも早く過ぎてしまう。何の計画も目標も持たず無為に過ごすにはあまりに惜しい四年間である。そして今回の海外研修は、私にそのことを教えてくれた。何か目標をもって、計画を立て、努力すること。当たり前のようにいて難しいことを、一年生の夏休みに与えられたことに感謝している。

また、一緒に行った9人の先輩、同輩の方々、先生方、香港で大切なことを教えてくださったKADOKAWAの方々、CUHKの方々にも、深い感謝の念を抱いている。

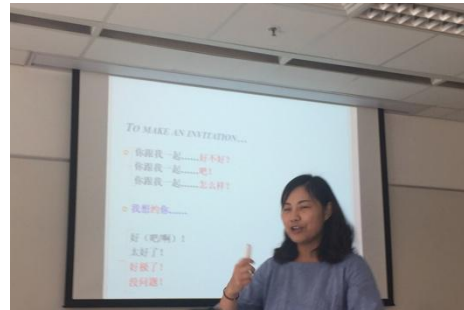
私が香港研修で得たもの

文責：遠藤杏奈

香港に行って何を得たのかと考えたときに、自信かな、と思った。

最初の3日間はジョブシャドウイングに参加した。私と小森さんは、かね善香港にお邪魔した。本当に色々な所に連れて行っていただき、香港内で日本がどのような立ち位置にあるかを知ることができ、その後の香港滞在期間中のものの見方が変わったと思う。香港の人は本当に親日的な人が多く、親日的でない人でも日本製品の品質を信用していることが伝わってきた。日本ブランドが生き残っていることを発見してとても誇らしい気持ちになったと同時に、日本人としての責任を感じたとともに自信がついた。

また、香港の就労事情も良くわかった。公的な年金がないこと、転職に気兼ねがないこと、売る人のこと、買う人のことを知っていることがビジネスチャンスにつながること等々。本当にかね善の方にはお世話になった。特にそこに居たインターンの方と話げできたのが嬉しかった。同世代の方は話しやすく、香港の若い方は独立派が多いことも肌で感じる事ができ、同じ目線から見た世界がこれほど違う所もあって、同じ人間として感じることは同じであることが感じられたことが大きな収穫だった。



オーラルの授業風景



ライティングの授業風景

ビジネス研修中は日本語が主だったが、インターンの方のうちの一人は英語しか話せず、その方が会話に参加した瞬間に英語に切り替わった場面に立ち会えたことも貴重な経験だった。私はもともと英語が話せたが、友達と話すような場面でも自分の英語が通用することを知り、将来英語でビジネスもできるかもしれないと期待に胸を膨らませている。

授業期間に入ってから中国語の勉強漬けの日々が続いた。平日は大抵部屋で勉強をし、大学内の食堂で晩御飯を調達した。稲葉さんとお弁当を買ってきて半分ずつ食べたこともあった。せっかく香港にいるのに、勿体無い気分になることもあったが、むしろ香港には中国語の勉強のために行っていたので、本来の目的が達成でき、今は充実感に浸っている。そもそも、CUHKの中国語のクラスの中には、半年だけ中国語を勉強したような人に最適なレベルがなかった。そのため、中国語を半年履修していた一年生たちは実力の斜め上のレベルのクラスを履修した。この決断が故に始め

の一週間はとても苦しかった。しかし、そこを超えるとだんだん楽しくなってきた、帰る頃には来た時には全く聞き取れなかった電車の中の放送や、ゆっくり話してくれる CUHK の学生の普通語、掃除の人の中国語が聞き取れるようになってとても嬉しかった。今までは中国語で作文なんてとんでもなかったが、今は簡単な事なら中国語で話せるようになった。授業で先生が言っていることが一切わからなかったにもかかわらず、猛勉強の甲斐あって理解できるようになったことは、やればできるという大きな自信になった。



終始中国語でのツアー

最後に見地味なことだが、自分にとっては大きな一歩だった事を紹介したい。実は意外と香港の街中は英語が通じず、周りには広東語で話しているの、私にとって香港は、自分の話せる言語が一切通じない初めての国だった。言葉が通じないことは自分が思った以上にストレスがたまり、3日目くらいで私は人と話すことを諦めようとした。レジではメニューを指差し、個数は指を立て、あとはニコニコして何か言い終わるのを待ち、お金を渡して終わらせた。それなら何か難しいコミュニケーションは求められないし、意味がわからないことをごちゃごちゃ言われて私が戸惑っていると相手がイライラするのを目の当たりにしなくていいし、私にとっては最高の解決策だった。しかし、香港のレストランではそれで済ませてくれないところが多く、結局観念してレジの人が何を言おうとしているのかを必死に推測しなくてはならなかった。それを続けて行くうちにだんだん相手の言いたいことがわかるようになって行った。そのことが本当に嬉しかったし、言語に頼らないコミュニケーションが少しだけできるようになったことは大きな自信になっている。

この一ヶ月の研修を通して、自分は必死になってやろうとすればほとんどなんでも出来るだろうという自信が持てるようになった。また、言語があまり通じないところでも生きていける自信がついた。今回の留学で、きっと長期留学に行っても自分はその時間を十分に有効活用できるだろうと思えるようになった。この短期海外研修を長期留学の足がかりにできればと思う。



食器の洗い方を教えて
くださっている CUHK の学生



綺麗な街なみの中にはそこそこに
ホームレスが (深圳)

感想

文責：小西一葉

香港短期研修に向けて私が掲げた目標は、「積極的に行動する」ということである。私は研修以前に中国語に触れたことがなく、中国語習得に対するモチベーションが高いわけではなかった。他の参加者が「HSK〇級合格！」という目標を宣言しているのを、「へえ～そんな検定があるのか」と間の抜けた顔で聞いていた。つまり、どうやら自分は随分とぼんやりとした理由で研修に参加してしまったのかもしれない、とやっと実感したのである。それではなぜ私がこの研修に参加したのか。それは、一言で言えば留学に憧れがあったからだ。様々なバックグラウンドを持つ人々と言語の壁を超えて交流しながら、初めての文化、初めての環境の中で自分の場所を見つけ適応していくスマートな姿が、留学先でのあり方の理想的なイメージとして第一に頭にあり、自分もそのような体験をしたい、というなんとも言葉にしにくい思いがあった。だから、自分の興味と関心にしたがってやりたいことには何にでも積極的に挑戦しようと、先に示した目標を掲げたのである。結論から言えば、この目標の達成率は50%である。以下にその理由を記していこうと思う。

本研修のメインかつ不安要素であった中国語プログラムは、私にとって非常に有意義であり積極的に取り組めた活動の一つである。英語で中国語を学ぶという授業方法に身構えていたものの、クラスメイトのインド人が中国人呼ばわりされるというクラス内の冗談を空笑いでやり過ごす程度に、なんとかこなすことができた。授業内容は、オーラルの授業はもちろんのこと、文法の授業でも話すことを意識し音を重視していたことがとてもよかったと思う。課題はこなすのは大変で授業についていくのも精一杯だったが、授業中たくさん触れた中国語の音になぜか愛着を感じるようになり、予習復習には意欲的に取り組み最後のリスニングテストは満点を取ることができた。（スピーキングのテストには触れない。今後の課題とする。）帰国してからも中国語の音には敏感に反応するようになったし、もっと聞いていたいという愛着はなぜか増すばかりである。

そのほか私が興味の向くままに動けたことは、大したことではないように思われるだろうが、徒歩での登校と教会見学である。某アニメのテーマソングのようだが、私は歩くことが好きなので毎日徒歩で授業に向かった。朝のスッキリした空気を感じながら余裕を持って授業に出るのは気持ちが良かったし、大学内に多数生えていたガジュマル（実際には、細葉榕と漢名で表記されたプレートがかけられていた）が気に入っていてそれらを横目に登校するのは楽しかった。また、私は教会が好きで、読めない地図に奮闘しながら訪れたセント・ジョーンズ教会はとても良い場所だった。セント・ジョーンズ教会は香港で2番目に古い建築物であり、オフィスに囲まれた場所にあるためビジネスパーソンたちの憩いの場所でもあるようだった。見よう見まねでベンチに座って興味本位で前の座席に置かれた聖書をパラパラとめくったり、光り輝くステンドグラスをぼーっと眺めたりしていた。自分だけの時間を過ごしているという感覚がとても貴重に感じられた。近くには可愛い雰囲気

の本屋もあり、店内には手乗りサイズの白い犬がいた。天使かと思った。ぜひまた訪れたい場所である。

反対に、香港研修を通して反省していることは、自分の欲望が思いの外小さかったことと、英語を使って他国の人々と積極的にコミュニケーションを取れなかったことである。

「〇〇食べたい！〇〇見たい！」と積極的に主張する1年生の存在が眩しかったからか、せっかく1ヶ月も初めての地にいるのに自分のしたいことに対する意識が相対的に弱かったように感じる。積極的に行動すると打ち出したからには、香港で実現したいことをきちんとリストアップしていけば良かったと思ったほどだ。もちろん自分の願望に反することはしなかったものの、他人に流されず自分の欲望に貪欲になり軸を持って行動することは、自分の生き方として今後の課題である。また、中国語プログラムに参加した学生は日本人が非常に多く、積極的に他国の学生とコミュニケーションをとれなかったことが悔やまれる。自らの英語力に自信がなかったせいでもあると思う。言語の壁があっても心を通わせることは可能だとは思いますが、やはり深い関係を築くには言葉というツールが何よりも重要であり、今回の研修でそのことを痛感した。

ぼんやりした目標に始まった今回の研修は、ぼんやりした自分に多数の気づきとしっかりとした問題意識を持たせてくれた。目標の達成に届かなかった半分は今後の課題となり、次に繋げるきっかけという点で実りある研修になったと思う。自分の理想のイメージはそう簡単に実現できるものではないし、実現してもはっきりと自覚できずある時ふと気づくものなのかもしれない。今回得た反省点を元に一層濃くなったなりたい姿のイメージを自分に重ねられるよう、目の前に置かれた現実的な目標を達成するべくこれから行動していく所存である。

研修を終えての感想

文責：小森景光

(1) 香港に行くこと

私が「香港」と聞いて思い浮かぶのは、『ダークナイト』や『トゥームレイダー』（旧シリーズの2および新作）といったハリウッド映画において、物語の序盤あるいは中盤に登場し、「主人公がなんらかの理由で立ち寄っていく場所」というイメージであった。

『ドクター・ストレンジ』のように、クライマックスシーンの舞台が香港になっている例もあるが、少なくとも香港という土地が主人公の本拠地でない点では共通している（さらに言えば、作中では「香港に来た」と言いながら、実際には香港で撮影していないことも多い）。そして、こういった映画に登場する香港は、西洋人の覗くレンズによって歪められた「Hong Kong」にすぎず、現地の住人の目には「正しくない香港」として映るのだろう。もちろん、ハリウッドの人々にとって、香港ははるか遠くのアジアの地であるのだから、これは仕方のないことだ。では、ハリウッドよりも香港に近い場所で暮らす我々日本人は、香港を正しく捉えることができているのだろうか。

香港で暮らしたことがある者、香港に頻繁に訪れる者、さまざまな資料を通して香港をよく知る者。こういった人々は、程度に差はあるだろうが、香港を理解していると言えるだろう。しかし、私のように、ハリウッド映画の中の香港しか知らない（香港映画さえ見たことがない）日本人にとっては、香港は「高層ビル群と看板だらけの繁華街のある地域」でしかない。しかし、これでは、いまだに日本が「サムライとニンジャが駆け巡り、トウキョウタワーとフジヤマが並ぶ国」だと思っている西洋人と大差ない。とにかく自分の足で行って見なければ、本当の香港を肌で感じることはできない。自分の中にある「香港＝映画の主人公が後は野となれ山となれ的に暴れていく場所」というイメージを消去し、正しい香港像を獲得したい。これが、この研修に参加し、香港を訪れようと思った根本的な動機である。単に語学の向上のみを目的とするなら、中国語（普通話）の学習は北京でも可能であり、また、英語の学習ならむしろ欧米諸国に行った方がよい（さらに極端なことを言えば、日本国内でもそれらを学ぶことのできる環境と機会は数多く存在する）。しかし、今回、私にとっては香港に実際に行くという行為そのものが重要だったのである。

(2) 映画館と学生のTシャツに見る香港

本来、この個別報告のパートでは、香港に着いてから自分がぶつかった「言葉の壁」や「カルチャーショック」といったオーソドックスなテーマとそれらを自分がいかにして乗り越えたかという成功談を扱わなければならないのかもしれない。ただ、私は、「言葉の壁」や「カルチャーショック」に遭遇するために留学するのであり、それらを経験できない留学はもはや留学ではなく、ただの旅行と変わらないと考えている。さらに自分では満足していたとしても、それらを本当に乗り越えたかどうかは主観的には判断できない。だからこそ、「言葉の壁」「カルチャーショック」といった帰国後アンケートの自由筆記欄

に書けば十分な程度の内容はあえてここでは詳細には叙述しない。むしろ、ここでは、香港を訪れて抱いた率直な感想を、記憶が鮮明なうちに記したい。

まずは香港の映画館について。私は、新しい場所に訪れると最初に映画館を探す。「せっかくだったら観光地に行けばいいのに」とアドバイスされることもあるが、あまり気が進まない。というのも、観光地ではその土地の素顔を見ることができないからだ。観光地のガイドや従業員は外国人向けの営業スマイルを浮かべており、他の客もほとんどが現地人ではない。そして、建築物や景色については、ガイドブックの写真であらかじめ見たいものを再確認するという作業を淡々とこなすことになってしまう。一方、映画館はその土地らしさがよく出る。万国共通であるはずの「映画を見る」という行為のみを目的とした場であるからこそ、逆に土地ごとの差異が際立ってくるのである（現地人が同一の目的を果たすために同一の姿勢になるスペースとしてはトイレも挙げられるが、これについてはあまり丁寧に描写すると、かえって品がなくなるので残念ながら割愛する）。さらに、上映されている映画は日本で見られるものも多い。「わざわざ香港にまで行って、なんでまた日本でも見られる映画を見るのか」と疑問に思われるかもしれないが、日本でも見られるようなメジャーな映画だからこそ、各シーンに対する観客の反応や字幕の付け方、ロビーに貼られたポスターの宣伝文句などを観察し、比較することができるのである。もちろん、リサーチのみならず、新しい映画を見ることもできるから、私にとっては一石二鳥である。

今回は、8館の映画館を訪れ、そのうち6館にて計8本の映画を鑑賞したが、そのなかでも特に興味深かった2館について紹介する。1館目は油麻地にある Broadway Cinematheque である。駅を出て、個性的な臭いを発するドリアンを大量に売る通りを抜け、マンション群が見えてくると、突如として現れる市民文化センターのような建物がこの Broadway Cinematheque だ。この映画館は香港の映画通が集まる場所として名高いそうである。確かに、ロビーには、映画グッズを専門に扱うショップ（その名も Kubrick）とアート系の若者が集まりそうなお洒落なブックカフェが併設され、なんとなく気難しそうな顔をした香港人が行ったり来たりしている。私は、映画はストレートに面白ければよいと普段から考えているので、「なにもそこまで考えこまなくても」とも思うが、ちょうど『万引き家族』の公開を記念して、「是枝家族」と題し、是枝裕和監督の映画を集中的に上映するフェアをやっていたので、是枝監督の初監督作品『幻の光』（香港でのタイトルは『Maborosi/幻之光』）を鑑賞した。海外で邦画を見られるのは非常にラッキーな体験である。上映後、他の観客を見ると、多くが「ううむ」という何とも言えない顔になっていた。「すごい。素晴らしい映画だ。やはり世界の Koreeda はすごい」という表情なのか、あるいは、「眠い。とにかく眠い映画だ。一度見れば十分だ」という表情なのか、定かではないが、少なくとも私は（評論家とファンに殴られそうだが）後者に一票である。2館目は旺角にある Newport である。ここは香港の昔ながらの映画館だそうで、入り口は決して大きくなく、映画館だと知らなければそのまま両替店か何かだと思って通り過ぎてしまいそうな外観である。Newport では香港映画を上映していることも多いが、今回は『The

MEG』というサメ映画を鑑賞した。他の映画館でも感じたことだが、この映画館では特に観客の反応の豊かさが面白かった。隣に座った中年の女性はラスト近くになると、身を乗り出し、まるで神に祈るかのように手を組んでいた。巨大ザメが船に襲いかかるたびに拍手している観客もいた。そして、私の後ろに座った子供が音の出る携帯ゲーム機で遊び始めようとする、何人かの観客が険しい表情で一斉に振り向いて、人差し指を口に当てるいわゆる「静かにしろ」ポーズをしたのも印象深かった。映画への向き合い方が真摯なのである。日本でヒットするかどうかは予測しにくい若手監督の作品を、まずは香港で上映してみるというのも1つの手ではないかと感じた。話は変わるが、香港には映画の検査条例が存在し、映画のポスターとともに検査済みであることを証明する公文書の写しが掲げられている点も興味深かった。また、同時期に中国本土で上映が禁止された『プーと大人になった僕』（原題『Christopher Robin』）は、香港では見ることができ、貴重な体験となった。

次に中文大学の学生のTシャツについて記したい。我々が研修に行ったのが、ちょうど中文大学の4年生の卒業および1年生の入学という時期であったことから、多くの中文大学の学生が学部（あるいは学科かもしれない）ごとにお揃いのTシャツを着ていた。さらに、キャンパスツアーにしても、4年生の退寮にしても、自由な雰囲気というよりは、むしろ軍隊のごとき集団行動が当たり前になっているように見えた。特に、退寮のセレモニーでは、寮の外に集まった参加者全員が決められたリズムで正確な手拍子をし、手拍子と手拍子の合間に「YMCA」のメロディにのせて「CUHK」と合唱する。さらにそれが長時間にわたって大音量で繰り返されるのである。我々のテスト勉強の時期と重なっていたこともあり、中には中文大学の学生と一触即発の状態になった留学生もいたそうだが、私にとっては騒音被害よりもむしろ、このTシャツやセレモニーをはじめとする中文大学の学生の集団行動の徹底のほうに恐ろしかった（私にとっては、虫、砂、プール、閉所、高所、ドーナツと並んで恐ろしいのが「集団行動」である）。

民主主義や独立を真剣に訴える学生は中文大学にも多くいるそうだが、万が一香港の完全な独立が果たされたとしても、イギリス的というよりは全体主義的な集団行動に慣れた彼らが、為政者となって民衆の上に立ったとき、果たして真に民主的な統治を行うことができるのだろうか。最終的に中国本土同様の国家が誕生する可能性はゼロだと言い切れるのか。そもそも彼らが中国人を強く軽蔑できるほどのアイデンティティを持っていると断言できるか。政治的思想と感情を混同させ、徒党を組んで、下から突き上げることにのみ情熱を燃やした革命家たちが、革命の成就後、独裁者を生んだという例は歴史上も多々見受けられる。さらに危惧すべきは、理念のために活動があるのではなく、活動のために理念が利用されること、壮大な目標のみを設定し、その先に何が待っているかを予測しないこと、そして、デモやストライキが汗を流すための単なるクラブ活動になってしまうことである。20歳前後の学生が自らの未来を不安視することは確かに大切だが、学びの道半ばであるにもかかわらず、完成された政治的思想をもったつもりになることもかなり危険だ。冷静に行われるべき活動が単なる感情的なパフォーマンスに陥ることも好ましくない。

私の杞憂かもしれないが、日本以上に過激な受験戦争に身を投じ、知識や語学を頭に詰め込んできたエリートである彼らが今後どのように動いていくかは、日本にとっても1つのモデルケースとなりうる問題であり、注視していくべきだと、お揃いのTシャツを着て列になって歩く学生を見て感じた。（付記：留学生も中文大学側からお揃いのTシャツをいただきますが、背中に大きく「I'm an Exchange Student」とプリントされています。このTシャツ1枚のみを着て市街地を歩くのは若干危険ですよ。）

（3）研修を終えて

新しい土地に行くと、まず抱くのは戸惑いや違和感である。他の海外留学に参加したときに、とにかく早くこれらを払拭しようとして「自分はこの土地に慣れた」というアピールをしている人を見たことがあるが、戸惑いや違和感を抱くことは恥ずべきことなのだろうか。私は今回の研修に参加して再確認することができたが、戸惑いや違和感を抱くことこそが、アカデミックな気づきにつながり、また、他文化に対する理解や共感の土台となるのだと思う。つまり、私にとっての戸惑いや違和感は、好奇心の萌芽なのである。そして、留学期間中に発生したトラブルや失敗は、後で思い返したときに分析のしがいがあり、実は成功体験以上に面白いことも多い。だからこそ、これから生きていく中でも、さまざまな場面で新しい土地に行き、新しい人に出会い、新しい経験をすることになると思うが、そのたびに抱くであろう戸惑いや違和感をむしろ大切にし、自分の中でポジティブに受け止めて、さらなる学びにつなげていきたい。

ところで、この場を借りて、我々が滞在した寮の食堂について少しか擁護しておきたい。研修中も研修後もこの食堂については何度も辛辣な意見や直接的な批判を耳にしたが、ほぼ毎日のように利用していた私にとってはいささか心が痛む。この食堂のメニューは特別に美味であるというわけではないが、かといって、特別にひどい味というわけでもないのである。確かに店員によっては英語も普通話も通じなかったり、食堂そのものの臭いが独特だったり、難点を挙げればきりはないが、値段が安く、注文を工夫すれば毎日のように十分な量の野菜を摂取することが可能だというメリットも存在する。つまり、良くも悪くもタフな食堂なのである。今後もレベル8以上の台風が来ない限りは、氷河期が訪れようと、隕石が飛来しようと、いつでもこの食堂は開いていると思うので、香港中文大学を訪れた方は、ぜひこの食堂にも一度足を運んでほしい。

研修を終えて

文責：櫻田將人

香港での長い夢のような時間から一か月たった今、この文章を書いている。この一か月は香港にいた一か月と同じくらい充実したものだったのだろうか。充実を量で比べる試みが愚かだと知りつつも、自分にそう問わずにはいられない。そうさせるほどに濃密な時間を、香港で過ごすことができた、という証左だろうか。

留学中の体験のディテールをなぞるような感想の書き方もできたが、ここではあえて自分の内面にフォーカスしてみようと思う。

まず一つに、研修を通して、言語を学ぶ喜びを再確認し、その感動を新たにすることができた。高校生の頃、言語を専門に学びたいと真剣に考えたことがあった。結局その気持ちをうやむやにしたまま法学部に進学したが、ほとんど初学者として普通話を学んだ今回の経験を通して、改めて自分の内側にあることばへの渴望と向き合うことができた。これはひとえに中文大の洗練された刺激的なプログラムのおかげにほかならないのだが、そのディテールはほかのメンバーのレポートに譲ろう。私はすでに日本語と英語、スペイン語と中国語の世界に足を踏み入れていて、まだほかの言語にも手を出してみたいと考えている。程度の差こそあれ、どの言語もまだまだ未熟だ。この話を友人にすると、そんなにいろいろ手を出して結局一つも身に付かないのではないか、つまみ食いだ、とよく言われるし、実際私もそのことで悩んできた。だが、これからは開き直ろうと思う。もちろん、どの言語も実践の場で使えるよう本気で学ぶつもりだが、その延長線上にあるのが、たくさんの外国語をパスポートに、世界にはばたくような自分でなくても構わない。新しい言語の、知らない文字や発音、文法の体系を少しずつ摂取する。一度他言語へのチャンネルを開いてしまえば、二度とそれを閉じることはできない。街の風景の一部だった凶形群、喧騒の一部だった音の連なりが、徐々に意味を持つ記号として騒ぎ出し、そこから何かを読み取ろうとせずにはいられない。他言語という異物を自分の中に取り込もうとする過程そのものがたまらなく楽しい。ことばを手段としてのみならず、目的としてとらえよ、と言えば少しかっこいいが、要は実用実用、とあまり力まず、言語の勉強自体をエンジョイしようということだ。今回の研修は、自分のそうした欲望に正直になる契機となった。

また、こう言うと大げさに聞こえるかもしれないが、自分の幸せの在り方について再考する機会を得ることができた。自分は幸福であるためにどこまでも他人を必要とする面倒な人間だ、ということには以前からうすうす気づいていたが、どこかで認めたくなかった。自分の幸せくらい自分で面倒を見られる、とっていたかっただのかもしれない。留学に行って、ある程度孤独な環境に身を置けば、自らの内側から、自分だけの現実、自分だけの幸福が芽生えてくる、という淡い期待を抱いていた。だが、結果は逆だった。香港にいる間、私はひとりの時間を楽しもうとした。確かに、自分しか知らないお気に入りの通りやお店を見つけることはできた。しかし、結局友人と共有する時間のほうが幸せに感じたし、

「友人と一緒にいること」に優先するほどひとりでいたいことを見つけることはできなかつた。他方、一緒に旅したほかのメンバーはそれを見つけているように見えた。畢竟、私は他者との連関の中でしか自らの幸せを定義できない。それは実は健全で、思い悩むようなことではないのかもしれない。でも、自分の人生の重要な一要素を外部に依存していると思うと、人工透析を受ける患者にでもなったかのような言いようのない不安に襲われることもある。

この問題は自分の中で答えの出ているものではないし、これからも抱えていくことになるだろう。しかし、今まで目をそらし、あいまいにしていた領域についてここまで深い考察に至れたのは、香港という異国の地でひとりになる時間を得たことはもちろん、一橋のメンバーと、夜な夜な中文大の寮で、トランプを楽しみつつ恋愛やファッション、幸福や人生について語り合った経験あつてのことである。あの夜、青臭い自分の告白を嫌がらずに聞いてくれたうえ、自身の価値観、人生観、そして私がどういう人間として見えているのかを聞かせてくれた面々には本当に感謝している。自分の悩みにコミットしてくれる友人を持たたことを、とても幸せに思う。

ここに羅列したことは私がこの研修から受けた影響のほんの一部に過ぎないし、香港で得た経験は、いまだに大きなエネルギーをもって私の心に揺らぎを与え続けているから、私が百度感想を尋ねられれば百度違う答えを吐き出すだろう。いずれにせよ確かなことは、香港という場所が私にとって快適かつ刺激的な、これ以上ない学びと気づきのプラットフォームだったということだ。

私にとって香港とは、「テーマのないテーマパーク」だった。どこの駅で降り、どこの路地を歩いても、新しい発見に出会えるテーマパークのような世界。一方で、言語も、文化も、帰属も、街並みも、一定のはっきりとした形に収まらず、一つのソリッドなアイデンティティを持たないこと自体がアイデンティティであるような、混沌とした世界。香港は今重要な変革期に差し掛かっている。中国政府が広州など南岸部の開発を成功させれば、香港はその経済的優位を失い、自ら国境を廃して中国の一部になるだろう、と予想する人もいる。他方、香港の独立を声高に叫ぶ若者たちもいる。これから香港がどのような道を辿るとしても、それは一つの形への収斂ではなく、更に複雑な発散への道程となるだろう。香港というカオスに、これからも熱い視線を送り続けよう。手元にあるオクトパスカードの有効期限はあと二年と十一か月。香港のおいしいご飯、いとおしい街並み、仲良くなった人たち。今ならすべて鮮明に思い出せる、と言いたいところだが、それらは現在進行形で、着実に色あせつつある。この想いが完全に冷めないうちに、必ずもう一度香港に会いに行きたい。

感想

文責：関さくら

今、改めて今回の研修を振り返ってみると、様々なことを学べたなと感じます。語学研修、Job Shadowing、そして日々の生活の中に、様々な気づきがありました。今回は、それらについて振り返ってみようと思います。

【語学研修について】

この研修で私は、事前の簡単なテストにより、4つレベルがあるうちの一番低いクラスに振り分けられました。しかし、初日の授業を受けて手ごたえを感じるができなかったため、悩んだ末に、私はレベルを1つ上げることにしました。結果的には、私はその選択にとっても満足しています。はじめは自分にとって内容が高度すぎて全く頭に入らず、焦りました。しかし、語彙などの些細なところから予習をはじめ、宿題も自力できちんと取り組むなどしていくうちに、依然としてアップアップではあったものの、なんとか授業についていけるようになりました。

香港中文大学の授業は、それ自体でとてもためになる実用的なものであるうえに、文法とオーラルの授業が完全にリンクしているので、自分のものにできればかなりの語学力が付くはずですし、実際自分でもかなりのことが身についたと思っています。特に、オーラルの授業のスピーキングエクササイズは、頭をフル回転させて自分の語彙力のできる限り相手に伝わる文を構築・アウトプットするもので、自分の話せなさを痛感し、モチベーションに変える良い機会でした。文法の授業でも、先生は語彙などの発声も盛んに取り入れてくださり、しっかりと学習することができたように思います。ただ、もっと先生と中国語でお話すればよかった、と今少し反省しています。なので、来年度以降に研修に行かれる方は、ネイティブの方と会話できる数少ない機会を十二分に生かしてほしいです。

【Job Shadowing について】

今回、私は City' Super さんと LOG-ON さん（以下敬称略）にお世話になりました。City' Super と LOG-ON の方々は皆さん親切で、店内の隅々まで案内して下さったので、私もより多くを吸収できるように努めました。

振り返ってみて、私が一番印象に残ったのは、店員さんが楽しそうに働いていたことです。皆さんニコニコして、時には同僚と話しながら作業しているのを見て、私もこんな環境の中で働きたいと純粋に思いました。また、その雰囲気のがさが店内に漂い、お客さんまでもがのんびりと買い物を楽しんでいるようにさえ見えました。

次に印象に残ったのは、在庫管理の充実さについてです。City' Super にしても LOG-ON にしても、店の裏の倉庫には、店内の商品を切らさないよう、多くのストックが隠されて

いました。特に City' Super は生鮮食品も扱っているのですが、大きな冷蔵庫などの設備も充実していました。このようなことが顧客の満足度や企業の売り上げにつながっているのだらうなということは以前から考えたことがありましたが、実際に見ることで、施設維持の大変さや、それをやっけてのける管理の精密さを感じることができました。

私の中で「スーパーは楽しい場所」というイメージがありましたが、そのイメージを支えている実際の現場を訪問できたことは、今後の商学部としての学習のモチベーションアップにつながるきっかけになったのではないかと思います。

【日々の生活について】

私はこれまで1週間以上の海外滞在を経験したことがなかったのですが、この1か月はホームシックになる暇もないくらい楽しくて、色々と感じることがありました。

まず感じたのは、香港人と日本人の価値観の違いです。エスカレーターの速さからもわかるように、香港人は日本人よりもせっかちなのかなと感じました。MTRの乗り換えなどの場合は特に甚だしく、子供をはじめ、多くの人々が我先にと乗車し、席を奪い合っていました（席を巡った口論も見受けられました）。日本ではあまり見たことがない光景だったので、はじめは正直引いてしまったのですが、生活していくうちにその違和感を受け入れることができるようになっていました。そのほかに衝撃だったのは、ローカルなストリーートの出店のオーナーが自分の商品の上に容器をのせてご飯を食べていたり、肉屋の店員が生肉の上に平気で物を置いていたり、といったことです。日本人が潔癖すぎるのでしょうか、それとも香港人がおおざっぱすぎるのでしょうか。私にはよくわかりませんでした。このような違いは慣れてくると面白かったです。

中文大学の学生を含め、親切な方々にもたくさんお会いすることができました。学生さんたちは、私たち留学生を楽しませるためにいろいろな催しを用意してくださいました。ローカルな店では、相席していた英語を使うことのできる現地の方が注文の手伝いをしてくださいました。タイオーという地域の方は、売り物のつるしてある魚介類をニコニコしながら持たせてくださいました。あるタクシーの運転手の方は、料金が高くないギリギリのラインの場所で降ろしてくださいました。異国の地でこのような方々に出会うと、自分の心が和むのがありありとわかりました。私も、日本での同級生の留学生にもう少し良い接し方はないのだろうかと考えさせられました。

ただ、もっと外国の方とお話ししたかったです。英語が母語でない国の方々とはそれなりに楽しく会話ができたのですが（それでもまだ足りないと思います）、ネイティブスピーカーの方とはあまり話せませんでした。中国圏への留学は、英語も中国語も鍛えることができる非常に良い機会だったのに…と、少し反省しています。

反省すべきことも多くありましたが、全体として非常に楽しく、充実した研修でした。また、この研修は、アジアをもっと巡ってみたいという思いを強くしました。

最後に、このような素晴らしい研修に関わってくださった全ての方に、感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。

感想

文責：中牟田雪奈

「どうせなら履修中の中国語をもっと得意にしたいな～」なんて結構軽い考えでこの短期海外語学研修に参加しましたが、帰国数カ月経った今でも消化しきれないほどの様々な学びを得ることができました。香港の情勢を詳しく学ぶ事前学習から、香港到着後の実践的なジョブシャドーイング、香港中文大学での中国語学習、数カ月を通して中身の非常に濃い日々を送りました。内容を振り返り、私の所感をまとめていきたいと思います。

一橋大学での事前学習では、太田先生や奇先生の下で、香港の政治・経済・文化・歴史に関するレクチャーがありました。香港にそれほど興味があった訳ではない私でしたが、この3ヶ月ほどのレクチャーの中で、香港の特異性や日本との様々な違いを知り、早く香港に行ってこの目で確かめたいと思うようになりました。特に印象的だったのが、雨傘運動などの香港独立の政治的な動きの中心に、私と変わらない年齢の若い人々が人生をかけて取り組んでいる姿をドキュメンタリー番組で見たものでした。「香港人のアイデンティティとは？今後の香港の行方を香港人はどう考えているのか？」などの問いに大いに関心を持つようになりました。香港に行く・中国語を習う・旅行を楽しむ、でも十分に楽しい1ヶ月を過ごせたでしょうが、私はこうした事前学習を通して、ただの語学留学ではない学びのある「研修」として香港の人々と触れ合うことができたように感じています。香港の学生に「メインランドのことをどう思っているの？」「香港の独立には賛成しているの？」と問いかけるのは勇気が要りましたし、センシティブかつ複雑な問いなので香港の学生を困らせてしまうことも多々ありましたが、「わたしは中国人と呼ばれても、香港人と呼ばれても良い。香港は中国の一部だと思っているから。」や「僕は独立に全く賛成しているわけではないけど、独立を掲げる若者を弾圧するのは間違っている。発言の自由・権利は誰にだってあるものだから。」といった様々な生の声を聞くことができました。一方で、日本に興味のある香港の学生からは、ブラック企業の問題や移民に対して寛容ではない日本の姿勢を問われるなど、国境を越えて文化の交流をできたという実感がありました。

3日間のジョブシャドーイングでは、ABC Cooking Studio 香港支部を訪れました。オフィスやお料理教室で働いてみて、食が人と人をつなげる力を持つことや、日本の食のブランド力の強さなど、これまで当たり前のように言われてきたことを肌で感じました。ジョブシャドーイングを通して、これから「海外と」いかに働くかを自分の中でもっと考える必要があると気がつきました。これまでの私は「国内で」「海外で」働くことを何か全く別のものと捉えていました。しかしながら、ABC Cooking Studio の中で、香港にいながら日本産の食材を売り出している田丸社長や、日本の地方にいながら地元の特産物を普及させるべく海外にPRしている公務員の方の姿を見て、理想としていること・やりたいことは、それほど変わらない事実にはっとさせられました。グローバル化が謳われる今、

どこで仕事をしているかが本質的な問題ではなく、どうやって海外と関わっていくのかに目を向けるべきで、私は様々なバックグラウンドを持つ海外の人と働くことに興味を持つものの、そもそも自分はどう働いていきたいのかを、今後見つけていきたいと思いました。

CUHKでの3週間の語学研修は、予想以上にハードで、大学受験後初めて真面目に机に向かいました。中国語を第二外国語として履修して1年以上経っていたので、リーディングやリスニングには少し自信がありましたが、実際に受けてみるとついていくのに精一杯…。普段は漢字に頼っていてピンイン発音をそれほど練習してこなかったもので、中国語を中国語で学習するという環境は新鮮でした。また、午前のグラマーと午後のスピーキングの授業は内容に関連があり、集中して効果的に学べた実感があります。クラスには京都大や立教大といった日本各地の大学生、スイス・ドイツ・イギリスからのヨーロッパ系の学生がおり、一橋のキャンパスとは異質な環境もまた面白かったです。3週間の講義を通して、語彙・作文・スピーキング力が格段に上がった実感があり、短期間であっても集中して質の高い学習をすればかなりの効果が得られること、大学に入ってからそのような学習を怠ってきた勿体無さを再認識しました。

また、研修中のアクティビティで出会ったCUHKの学生との交流も、私にとっては素敵な思い出です。私たちをホスティングしてくれた学生は、日本に興味のある人が多く、(CUHKは日本研究で有名な大学で、構内には日本語が書かれたシャツを着ている学生がたくさんいました)お互いに文化を紹介しあったり、言語を教えあったり、楽しかったです。何より彼らのホスピタリティはとて高く、大学の事務手続きから週末のショートトリップのアシスタントまで至れりつくせり…。なぜ出会ったばかりの異国の学生にこんなに親切にできるのかと不思議に思うほどでしたが、毎日全世界から観光客が街に訪れ、多様なバックグラウンドを持つ人々が共存している土地柄ゆえ、こういった姿勢が身につくのでしょうか。とにかく、彼らのおかげで香港が大好きになりましたし、このホスピタリティは私も見習うべきで、海外にでるだけが国際交流の形ではないと気づかされました。

そして、1ヶ月の間に訪れた香港、深セン、マカオの街は強烈に印象に残っています。いつも生活している空間とは違った、活気に溢れる街での生活を通して、パワーをもらった1ヶ月でした。世界中から人々が流れ込んでくる感じ、経済がグングン伸びている感じ、古いモノ・新しいモノが混在している感じ、上手く言葉に表せませんが香港のそうした雰囲気大好きになりました。

日本に帰ってきて数週間、香港で抱いたワクワク感は今も忘れられません。今後は大好きになった香港・中国を更に理解していくために、中国語学習をもっと頑張りたいという意欲に溢れています。このような素敵な経験を提供していただき、支えてくださったすべての皆様に御礼申し上げます。

留学の感想

文責：流真理子

香港から成田へ帰る飛行機の中でこの原稿を書いています。例えば、「明日からもう一度香港留学があるとして参加するか」と聞かれたとしたら、迷わず行くと答えます。それほど、この一ヶ月間の留学に大変満足しています。

理由の 1 点目は、香港中文大学の中国語授業の質の高さです。平日の 9:30-12:15, 14:30-17:15 で受けていた中国語の授業は、大変綿密に準備されており、効率的かつ集中的に勉強できるものでした。教科書は、旅行や物の紛失などのテーマごとに編成されており、特に留学生や旅行者が遭遇するシチュエーションに合わせてあるように感じました。そのため、授業で新しく覚えた単語を、香港で生活している中で見つけることが何度もありました。また、授業中、先生は北京語のみを使用するため、必然的にリスニング力が鍛えられたと思います。最初のうちは全く聞き取れず焦っていたのが、ただ必死に聞こう聞こうとしているうちに、先生の話のほとんどを聞き取れるようになり、小さな冗談にも反応して笑ったりできるようになっていました。自分自身で一番成果を実感できたポイントです。

私は事前のプレイスメントテストで Lv.3 に振り分けられていたものの、初日に難しすぎてついていけず、Lv.2 に下げることになりました。悔しくて授業開始早々で落ち込んだものの、結果的には良い判断だったと思っています。Lv.2 の内容は、私にとって 4 割ぐらいが既習の内容でしたが、むしろ自分にとって、どこがわからない箇所をどこを重点的に予習復習すべきか主体的に考えて勉強することができて、効率的に吸収できました。Lv.2 では 1 番になりたいなあと密かに目標を立てていたのも、勉強のやる気を維持できた理由だと思います。スピーキングのクラス投票で一度 1 位を頂いたので、一応達成かな？と甘めの自己評価をしています。

2 点目は、学年を超えたチームができることです。今回の留学に参加したメンバーは、学年も属性も全く違う人々の集まりました。個人的に、大学 4 年になり、交友関係が固定されてきたタイミングだったので、新しい友人と出会える機会は大変ありがたいものでした。一ヶ月間合宿のような時間を一緒に過ごし、徐々に各々の素の行動が見えるようになり、後輩たちが 4 年の萩野君や私をいじってくれるようになり、急速に仲が深まってきました。中でも、1 年生が多かったので、彼らの元気さに引っ張られ、パワフルで笑いの絶えない時間を過ごすことができました。また事あるごとに集まりたいと思えるチームです。みんなありがとう。さらに、各学年の方を見ながら、自分がその学年だった時のころを思い出し、思いがけず自分の大学生活を振り返ることにもなりました。この留学を早いうちに経験した下級生を少し羨ましく思いつつも、4 年で参加したからこそ感じられることがあったとも思います。例えば、自分一人で香港中を動き回れたのは、大学生活の中で一人旅を趣味にして何度も経験していたからこそできたことだと思います。

3点目は、外国から来た学生と交流が持てたことです。クラスの外国人学生や CUHK の学生とも会話をする機会がたくさんありましたが、特にルームメイトに恵まれました。ウィーン大学から来た大学院生で、聡明ながら冗談をよく言うファニーな方で、とても気の合う相手でした。香港の経済や文化についての考えを議論したり、互いの国の音楽を勧めあったり、その日のコーディネーターがイケてると褒めあったり、まじめな話から些細で日常的な会話まで、たくさんコミュニケーションをとりました。バックグラウンドの違いから生じる認識の違いがおもしろく、刺激的でしたが、自分の語学力が足りないために伝えきれなかったことが多々ありました。この良い時間を噛み締めると同時に、語学の悔しさと向上心を忘れないようにしようと思います。（ただし、一橋からこのプログラムに参加した女性が奇数人で私が最上級生だったために、私だけ一橋ではない大学の人とルームシェアさせていただきました。この点は非常に幸運でした。）

来年度以降に参加される方のために、予想外だった点についても述べておきたいと思います。まず、一ヶ月間、大変忙しいスケジュールであるということです。平日は日中に授業を受けて夜に課題を行い、土曜は中文大学が主催するアクティビティがあり、日曜は自由行動ですが結局一日中観光に出かける、という密度の濃い日々でした。もう少し余裕があるほうが、ローカルなところまで足を延ばしたり、感じたこと・考えたことを考察したりする時間ができると思いました。また、香港が（私の想像以上に）都市化しており、生活している間は東京にいる時と全く感覚が変わりませんでした。良くも悪くも、力を入れずにいつも通り生活していました。

学生生活最後の夏休みに、これ以上の過ごし方はないのではないのでしょうか。というのは言い過ぎでしょうか。というくらい充実した時間を送ることができました。ここで述べたのは留学の主要な要素で、その他にも行く先々で出会ったこと・感じたことのひとつひとつが、私のものの見方や考え方に影響し、変化を起こしています。普段と違う場所・環境に置かれることで、半強制的に刺激を受け、自分自身に揺らぎを生んで、その状態でまた日常に戻り、生活を見つめなおすことが、留学の醍醐味であると感じます。香港から持ち帰った新しい視点でものを見ながら、残りの学生生活を過ごしたいと思います。

最後に、一橋大学の先生方、旅程をアレンジしてくださった CIEE の方、送り出してくれた両親、一緒に過ごしたメンバー、香港留学を通じて出会った皆様に感謝申し上げます。

参加した感想

文責：萩野雅彦

私がこのプログラムを知ったきっかけは一昨年に参加した友人の紹介と、昨年 11 月に一人旅した香港への印象からであった。就職活動を終えて来年 4 月から働き始めるタイミングで、1 年生と 2 年生のときに学習した中国語を改めて学習して社会人にも繋げたいという思い、また、香港の多様な文化や食事の美味しさなどに鑑みて、一ヶ月の滞在をしたいという思いを持ったからだ。

中国語を話す機会も少ない私にとっては、スピーキングが大きな壁となることは予想がついていた。オーラルの授業で自分が指名された際には、大きな声で自信を持って答えるという至極基本的なことから心がけた。しかし現実には、眠い日もあれば復習不足で正しい回答がわからないことも時折あった。帰国後に HSK4 級を取得するという目標を達成するためには、単語やフレーズのインプットがまだまだ足りないように感じる。基本的な用語や表現をみっちり 3 週間かけて覚えることを経た今、私は追加で学習する意欲に満ち溢れている。中国人の友人を巻き込んで、もしくは中国人の彼女を作るなどして、学びの機会を自分から作っていく必要があると感じる。

また、すでに大学 4 年目であり、かつ海外での生活も幾分か多く経験していると自負している私にとっては、後輩 8 人の手本となるような言動を目指した。その理想とする姿に自分が達している自信は少しもなかったが、道案内や外食の提案などを積極的に自分から行うことで、周囲が私に感じる頼もしさが少しでも多くなるように率先して行動した。おかげで後輩も自分が経験した出来事や感じたことを積極的に話しにきてくれるようになった(と少なくとも僕自身は感じている)。

私は香港を、非常に「日本に近くて遠い」「似ていそうで異なる」地域であると考えている。国土が小さく人口密度的には世界的にみても過密状態ではあるが、それは東京都心部の状況と大して変わらないと感じる。一方で文化的には広東文化や中国の一部地域ではあるが別制度をとっている点など、複雑な時代背景が存在する。私にとって香港のこのような特徴がとても新鮮に感じられた。日本では学べないかもしれない多文化の共生する状況、多言語が活用される状況など。一度足を運んで肌で感じることで、グローバルなものの考えかたの根本となりうる要素が多く詰まっている場所だと感じた。

最後に改めて、実際に現地に滞在した率直な感想として、もう 1 年でも学習、生活することができるなという気持ちがあった。これは治安のよさ、香港内の交通アクセスのよさもさることながら、香港中文大学の学生のサポートの厚さ、先生のマメな指導のおかげであることを確信している。タクシーに置いてきてしまった携帯を即座に通知してくれたこと、スピーキングのフィードバックを即日で準備して返してくれる先生、自分は一切汚していない部屋のシーツを寮の清掃のおばちゃんに清掃代 300 ドルを請求されたときに広東語の通訳と合わせて助けてくれた CUHK の学生など。周囲のたくさんの手助けがあったからこそ、快適かつ学びの多い 1 ヶ月間を過ごすことができたと感じる。日本からはるばる参加した 21 歳の若造として、お世話になった皆さまを含む 700 万人超の香港人全員に感謝を申し上げたい。

感想

文責：山田理子

<中国語研修について>

「留学」という言葉通りの3週間だった。平日の朝は早起きして勉強、昼休みに寮の部屋へ戻って勉強、放課後も外出せずに勉強…。授業時間（午前の文法クラス：9:30-12:15、午後のオーラルクラス：14:30-17:15）を含めれば、1日あたり10時間以上中国語に触れていたことになる。私にとってLevel 2の授業内容はかなり難しく、最初の2,3日間は先生の指示が1割ほどしか聞き取れない状況だった。しかし周りを見渡すと、中国語で積極的に質問をしている学生、議論をしている学生、なかには冗談を飛ばしている学生もいる…！彼らとの実力の差を思い知り愕然とした。周りのレベルに追い付くためにやれることはやり切りたい。そう決意した日から、3週間勉強漬けの生活がスタートした。

授業を受けてみてまず直面した課題は、「聞きとれない」ということ。授業で使われる言語は全部中国語（英語の使用は禁止）で、これが聞き取れなければ話にならない、と言われていたようだった。自習としては、テキスト付属のリスニング音声を使った本文のシャドウイング、単語のディクテーション等「耳から入れる」ことを意識した訓練を反復。毎日のリスニングで耳が慣れてきたのか、2週目には大幅な進歩がみられ、授業内の指示・説明の5割ほどが聞き取れるようになっていた。練習の継続で聞き取れる内容は日に日に多くなっていき、最終週には9割ほどが理解できるようになったと感じている。

こうしてある程度「聞ける」という自覚が生まれ、新しい知識を吸収することが楽しくてしかたなかった私だったが、次に待ち構えていたのは、自分で文章を組み立てて瞬時に「話す」という課題だった。クラスメイトはもともと中国に何かしらのバックグラウンドを持つ人（中国人の両親をもち家庭内では中国語を話すアメリカ人、中国に長期滞在の経験をもつ韓国人など）が多く、文法よりもオーラルを得意とする場合がほとんどだった。それに対し私は、実践的な中国語を話すのは今回が初めて。当然、午後のオーラルの授業では自分の実力不足を強く実感することとなった。「話す」トレーニングを授業外で行うのは難しかったが、アクティビティでお世話になったCUHKのSamanthaとはあえて中国語で話す機会を作ってもらい、自分の思考を中国語に変換するトレーニングを重ねた。結局、スピーキング力の向上は飛躍的なものとはならなかったが、一つ成果を挙げるとすれば、最終週に中国語を話す夢を見たことだ。夢のなかで受けていた授業では、習ったばかりの単語・文法を使って正しく話すことができおり、正直これはかなりの自信になった。中国語が口からスムーズに出てくる感覚をつかみかけていただけに、そこで帰国のタイミングが来てしまったことがとても残念だった。

<生活について>

香港での生活は、波乱の幕開けとなった。寮に到着した日の夜、海外非対応の電源タップを誤って挿し込んでしまいショート、その影響で部屋の電源がすべて使えなくなるとい

うトラブルを起こしてしまったのだ。翌朝、寮の受付にいるおばさんに状況を説明しに行った。「香港だし英語が通じるだろう」と踏んでいたのだが、甘かった。彼女は広東語しか話せなかったのだ。英語が通じないと気づき、大げさな身振り手振りを交えて話してみるものの伝わらない。今度は広東語⇔日本語の翻訳アプリを試してみるが、うまくいかず。次第におばさんはイライラしてきて、一方的に広東語で何かをまくし立て、私を追い払うような仕草を見せた。それでも食い下がって説明を続けていた時、たまたま CUHK の学生が周辺を通りかかった。彼なら広東語を理解できるかもしれない…！藁にも縋る思いで声をかけてみたところ「広東語も英語も喋れるよ！」と快く通訳を引き受けてくれた。彼が間に入ってくれたおかげでその後は広東語⇔英語のコミュニケーションが円滑に進み、部屋の状況をやっと伝えることができた。

言葉も満足に通じない完全アウェーの土地において、自分1人でトラブル対応をする。これは私にとって初めてのことで、対応の最中は不安と焦りに押しつぶされそうだった。しかし今こうして振り返ってみると、この出来事から得たものは測り知れないほど多い。

まず、「大抵のことはなんとかなる」という度胸とそれを乗り越えるタフさが身についたこと。自分の話がここまで相手に伝わらない状況は今まで経験したことがなく、しかも「ここでうまく話をつけないければ電気の来ない生活が待っている」というまさに背水の陣で臨むコミュニケーションは人生で初めてだった。追い払われても粘り強く主張を続け、残されたわずかな可能性を探るという一連のものがきはなかなか貴重な経験になったのではないか、と今になって思う。「結局コミュニケーションは人対人、言葉や思考の枠組みが多少違ったとしても意思疎通は不可能ではない」という言語や価値観に執着しない考え方ができるようになったのは、今回のトラブル対応を乗り越えた私の成長だと感じている。

そして次に、香港の学生の温かさに触れたこと。通訳に入ってくれた学生は本当に偶然そこを通りかかっただけでもかかわらず、今回の対応に30分以上も時間を割いてくれた。私の拙い英語を聞き取って通訳してくれるだけでも十分ありがたいのに、私の状況を知るとひどく心配して時折励ましの声をかけてくれ、彼の優しさに涙が出そうだった。もし自分が逆の立場だったら、初対面の外国人にここまで優しくできていただろうか。相手がどんな人であろうと分け隔てなく手を差し伸べる、彼のような心の余裕をもった人間でありたいと痛感した。

最期に、日本と香港の対応の違いを思い知らされたこと。受付のおばさんに状況が伝わった後「明日修理業者が来るからね」と言われ同意書にサインをした。しかし翌日業者は現れなかった。すぐに大学のオフィスに問い合わせたが、業者を待ち続けたが、いくら待っても来ない。結局トラブル発生から6日間、私の部屋では電気が使えない状況となってしまった。約束をしたのに守られない、というのは日本ではまずありえないこと。しかし、これまで当たり前だと思っていた日本の基準が世界の基準ではないのだ、ということを経験した。今回の出来事を通して思い知らされた。「日本の外に出て日本を知る」というのはこういうことか、と身をもって体験した。

<全体を通して>

Job Shadowing、中国語研修、寮での生活… この1か月間は、今までになく中身が詰まった時間だったと今自信をもって言える。毎日が新しい発見と驚きの連続で、実際に香港に行かなければわからなかったことばかりだった。素敵な学びの時間を共有できた9人のメンバーやクラスメイト、そして機会を作ってくださった先生方、CUHKの方々をはじめ、関わってくれた全ての方々に感謝したい。

【編集後記】

言いたいことがたくさんありすぎて、まとまらないので一つだけ！みなさんと一緒に日比谷の添好運に行きたいです！（稲葉りお）

私は文章を書くことが下手で、たくさんあった素晴らしいことが伝え切れていないことがたくさんあります。とにかく、留学を通して少しでも変わったと思ったことは確かです！それもとて個性豊かな面子に恵まれたからでしょう。これから変化を恐れずにどんどん変わっていったらいいなと思いました。（遠藤杏奈）

遠出と虫が苦手なので、都市部および屋内施設をうろうろしていたことが多かったのですが、香港は個人的に非常に面白い場所でした。チームのみなさん、先生方、CIEE のみなさん、かね善のみなさん、香港中文大学のみなさん、本当にお世話になりました。ありがとうございました。（小森景光）

「留学したいな」という思いだけで参加した香港研修。初めての場所、初めての短期留学、初めての言語、はじめましての友人…わからないことだらけの世界の中で自分なりに考え悩んだ1ヶ月でした。このような経験をさせてくださった多方面の方々に感謝しています。（小西一葉）

CIEE の方々、奇先生、太田先生、楊さんはじめ現地スタッフの皆さん、HITACHI の皆さん、CUHK で出会ったみんな、王老师贺老师、留学明け暖かく迎えてくれた部活/サークルのみんな、送り出してくれた両親、そして9人の仲間たち！おかげさまで最高の旅になりました！ありがとう、谢谢、唔該晒！！（櫻田将人）

今でも「私まだまだ香港にいたかったな～」と思っています。それだけ今回の研修は楽しくて刺激になりました。きっと今後の私の人生に新しい見方を与えてくれると思います。そして、関わってくださった方々には本当に感謝しています。谢谢。（関さくら）

研修レポートを書いている最中、香港にCUHKに帰りたくてたまらなくなりました…！語り尽くせないくらい素敵な経験をサポートしてくださった先生方、CIEEの方々、CUHKの学生さん、一橋のメンバーの皆さんなどなど、お世話になったすべての皆さんに感謝しております。（中牟田雪奈）

この1か月で笑ったことベスト3は、「東京站(dōngjīngzhàn)と最高じゃんって似てるよね (by 稲葉)」「唐突に大自然に囲まれた小西 (by 中牟田)」「お土産にタイ米 2kg 買った (by 萩野)」です。谢谢大家！（流真理子）

この短期香港研修において最後まで意識していたことは、10人のまとまりある香港メンバーを作ることかもしれません。4年でリーダーのお兄さんのようなポジションを演じつつも誰よりも楽しめた自信のある香港生活を胸にしまい、残りの学生生活および社会人生活を頑張りたいと思います。またどこかで会いましょう！（萩野雅彦）

自室での電源トラブル、入国審査でかけられた整形疑惑、所持金3元のサバイバル…。ハプニングの連続でしたが、これまでにない楽しい思い出ができました。谢谢您！（山田理子）

STUDY ABROAD PROGRAM 2018

全学プログラム

主な対象者	プログラム名	奨学金等	条件等
学部3-4年生 大学院生	一橋大学海外派遣留学制度（交換留学制度）	大学基金等 （給付型）	<ul style="list-style-type: none"> ●本学協定校への交換留学（留学期間1年以内） ●派遣先大学毎に異なる語学要件等有り ●募集人数160人程度 ●単位互換認定可
学部3-4年生	グローバルリーダー育成海外留学制度	大学基金 （給付型）	<ul style="list-style-type: none"> ●アメリカ・ハーバード大学 ●英国・オックスフォード大学、ケンブリッジ大学、LSE ●派遣留学期間1年以内 ●派遣先大学毎に異なる語学要件等あり ●募集人数4人程度 ●単位互換認定可
学部2-4年生	一橋大学サマースクール等留学制度	大学基金等 （給付型）	<ul style="list-style-type: none"> ●アメリカ・ペンシルヴァニア大学 ●アメリカ・スタンフォード大学 ●アメリカ・カリフォルニア大学 ロサンゼルス校、アーヴァイン校、デーヴィス校 ●イタリア・ボッコロニ大学 ●英国・LSE ●英国・ロンドン大学アジア・アフリカ研究院 ●英国・グラスゴー大学 ●オーストリア・ウィーン経済大学 ●スペイン・ESADE Business School ●デンマーク・コペンハーゲン経済大学 ●フランス・パリ政治学院 ●韓国・ソウル大学 ●シンガポール・シンガポール経営大学 ●中国・北京大学 ●中国・中国人民大学 ●香港・香港大学 ●留学期間1~2ヶ月程度 ●派遣先大学毎に異なる語学要件等あり ●単位互換認定可
学部生	短期海外研修（夏期・香港中文大学）	大学基金等 （給付型）	<ul style="list-style-type: none"> ●中国・香港中文大学 ●留学期間4週間程度（夏季授業休業期間中） ●6単位認定、大学院生は単位認定不可 ●ビジネス体験1週間+語学研修3週間 ●TOEFL 500 (ITP)以上が望ましい
	短期海外研修（夏期・モナシュ大学・グローバル・プロフェッショナル・プログラム）		<ul style="list-style-type: none"> ●オーストラリア・モナシュ大学 ●留学期間4週間程度（夏季授業休業期間中） ●6単位認定 ●TOEFL71(iBT), IELTS5.5程度を有すること ●TOEFL530(ITP), TOEIC700も可能
	短期海外研修（春期・スペイン企業派遣）		<ul style="list-style-type: none"> ●スペイン・Berge社 ●留学期間5週間程度（春季授業休業期間中） ●7単位認定 ●TOEFL79(iBT), 550(PBT), TOEIC730, IELTS6.5程度（スペイン語能力（DELE中級以上）保持者は優遇）
	短期海外研修（春期・シンガポール経営大学・マレーシア工科大学）		<ul style="list-style-type: none"> ●シンガポール・シンガポール経営大学/マレーシア・マレーシア工科大学 ●留学期間3週間程度（春季授業休業期間中） ●4単位認定 ●TOEFL525(ITP)以上が望ましい
学部生	海外語学研修（英語）	大学基金等 （給付型）	<ul style="list-style-type: none"> ●アメリカ・スタンフォード大学 ●アメリカ・カリフォルニア大学デーヴィス校 ●アメリカ・カリフォルニア大学アーヴァイン校 ●アメリカ・ペンシルヴァニア大学 ●アメリカ・ボストン大学 ●アメリカ・テキサス大学オースティン校 ●英国・グラスゴー大学 ●英国・エセックス大学 ●英国・サセックス大学 ●オーストラリア・ニューサウスウェールズ大学 ●オーストラリア・シドニー大学 ●オーストラリア・クイーンズランド大学 ●オーストラリア・モナシュ大学 ●留学期間4週間または5週間程度（夏季又は春季授業休業期間中） ●5-7単位認定(派遣先大学により異なる) ※2017年度の場合 ●派遣先大学毎に異なる語学要件等有り
	ドイツ語短期海外語学研修	<ul style="list-style-type: none"> ●ドイツ・アーヘン語学アカデミー ●留学期間4週間以内（夏季授業休業期間中） ●6単位認定 ●大学院生も参加可能だが、単位認定不可 	

経済学部・法学部・社会学部グローバル・リーダーズ・プログラム

主な対象者	プログラム名	奨学金等	条件等
学部生	経済学部短期海外調査（アジア新興国）	大学基金等 （給付型）	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度は中国を予定 ●留学期間10日間程度（夏季授業休業期間中） ●運動する基礎ゼミナールとセットで履修し8単位認定（春・夏学期基礎ゼミナール2単位、秋・冬学期基礎ゼミナール2単位、短期海外調査4単位）
	経済学部短期海外調査（EU圏）		<ul style="list-style-type: none"> ●今年度はフランス、ドイツを予定 ●留学期間11~12日間程度（春季授業休業期間中） ●運動する基礎ゼミナールとセットで履修し8単位認定（春・夏学期基礎ゼミナール2単位、秋・冬学期基礎ゼミナール2単位、短期海外調査4単位）
学部3-4年生 大学院生	法学部GLP国際セミナー（ベルギー）	大学基金等 （給付型）	<ul style="list-style-type: none"> ●今年度はソウル大学・ルーヴァンカトリック大学を予定 ●留学期間2週間程度（夏季授業休業期間中） ●2単位認定 ●全学部を対象とする
学部3-4年生	法学部GLP国際セミナー（韓国/英国/台湾/中国）		<ul style="list-style-type: none"> ●今年度は韓国・英国・台湾・中国の4つのプログラムを予定 ●留学期間は3日間~4日間程度 ●2単位認定
社会学部 2年生	社会学部GLP海外短期調査	大学基金等 （給付型）	<ul style="list-style-type: none"> ●留学先はフィリピン、マレーシアを予定 ●留学期間は7日間程度（夏季集中講義期間中） ●4単位認定 ●上書き履修不可、反復履修不可

日本学生支援機構 (JASSO)

主な対象者	プログラム名	奨学金等	条件等
学部生 大学院生	官民協働海外留学支援制度 ～トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム～	給付型	<ul style="list-style-type: none"> ●日本国籍を有する者又は日本永住者 ●留学終了後、日本の在籍大学で学業を継続又は学位を取得する学生 ●月額滞在費に加え、授業料及び留学準備金を支援 ●家計基準あり
大学院生	海外留学支援制度（大学院学位取得型）	給付型	<ul style="list-style-type: none"> ●外国の大学院での修士又は博士の学位を取得する者 ●支援期間は修士2年以内、博士課程は原則3年以内 ●月額滞在費に加え、別途授業料を支援 ●その他、学業成績要件、語学要件、年齢制限等あり
学部生 大学院生	第二種奨学金（海外）	有利子貸与型	<ul style="list-style-type: none"> ●留学年度の前年度に、国内の大学等を卒業（修了）見込みであり、進学（入学もしくは編入の者）をする者 ●申込手続き完了時において、国内の大学等を卒業（修了）後3年以内の者 ●貸与月額（選択制） 大学：3万円、5万円、8万円、10万円、12万円 大学院：5万円、8万円、10万円、13万円、15万円 ●家計基準あり
学部生 大学院生	第二種奨学金（短期留学）	有利子貸与型	<ul style="list-style-type: none"> ●国内の大学に在籍中に、海外の大学・大学院・短期大学に3ヶ月以上1年以内の短期留学をする者 ●貸与月額（選択制） 大学：3万円、5万円、8万円、10万円、12万円 大学院：5万円、8万円、10万円、13万円、15万円 ●家計基準あり

※日本学生支援機構(JASSO)の海外留学奨学金パンフレットにも、奨学金情報が網羅されています。日本学生支援機構 海外留学のための奨学金http://www.jasso.go.jp/ryugaku/study_a/scholarship/index.html

一橋大学基金海外留学支援奨学金等

主な対象者	プログラム名	奨学金等	条件等
学部生	一橋大学海外留学奨学金	給付型	<ul style="list-style-type: none"> ●如水会・明治産業株式会社・明産株式会社の寄付による ●一橋大学海外派遣留学制度による派遣留学生（学部生のみ）全員への奨学金支援 ●留学準備金及び滞在費の支援
大学院生	一橋大学基金大学院生海外留学奨学金	給付型	<ul style="list-style-type: none"> ●奨学金支援期間1年以内 ●募集人数4人程度 ●月額滞在費に加え、別途研究活動費を支援 ●留学中は休学することも可能
学部生	榊原忠幸基金海外留学支援資金	給付型	<ul style="list-style-type: none"> ●故榊原忠幸氏の御令室の寄付による ●学業優秀で、かつ経済的支援が必要な者 ●海外語学研修(英語)の派遣先大学の参加費用・滞在費等の支援 ●支援人数年間10人程度
学部生	堀海外留学支援資金	給付型	<ul style="list-style-type: none"> ●堀誠氏の寄付による ●愛知県内の高等学校を卒業した者で、通年（1年間）に渡り交換留学を行う者 ●留学に必要な経費の支援 ●支援人数年間5人程度

その他の民間財団等の海外留学奨学金

<http://international.hit-u.ac.jp/jp/abroad/scholarship/index.php>

民間財団等が募集を行う海外留学のための奨学金があります。奨学金によっては、学内選考が必要な場合がありますが、直接応募できるものが多数です。民間財団等の奨学金のうち、大学に公募情報が届いたものについてはこのページおよび国際研究館1階国際課前の掲示板にも掲載しています。

関係URL等

プログラム	URL
一橋大学海外派遣・グローバルリーダー育成留学制度	http://international.hit-u.ac.jp/jp/abroad/haken/index.html
一橋大学基金大学院生海外留学奨学金制度	http://international.hit-u.ac.jp/jp/abroad/grad/index.html
一橋大学サマースクール等留学制度	http://www.hit-u.ac.jp/kyomu/info/news.html
海外語学研修（英語）	http://www.hit-u.ac.jp/kyomu/info/news.html
ドイツ語短期海外語学研修	https://sites.google.com/site/gogakukenshu/
短期海外研修（スペイン、香港、シンガポール、モナシユ）	http://international.hit-u.ac.jp/jp/courses/index.html
経済学部 短期海外調査	http://www4.econ.hit-u.ac.jp/glp/?page_id=7
商学部 渋沢スカラシップ	http://ssp.cm.hit-u.ac.jp/
経済学部 グローバル・リーダーズ・プログラム	http://www4.econ.hit-u.ac.jp/glp/
法学部 グローバル・リーダーズ・プログラム	http://www.law.hit-u.ac.jp/faculty/glp
社会学部 グローバル・リーダーズ・プログラム	http://www.soc.hit-u.ac.jp/glp/ja/index.html
日本学生支援機構等の奨学金について	http://international.hit-u.ac.jp/jp/abroad/jasso/index.html

お問い合わせ先

国際教育センター留学生・海外留学相談室 URL: <http://international.hit-u.ac.jp/jp/cge/advising/>

学務部国際課 TEL: 042-580-8764 / E-mail: int-gs.g@dm.hit-u.ac.jp

教務課グローバルスキルズチーム（海外語学研修（英語）及び一橋大学サマースクール等留学制度）

TEL: 042-580-8175 / E-mail: g-skills.g@dm.hit-u.ac.jp

※上記のプログラムは、平成30年3月時点の予定であり、今後予告なく変更・追加等が生じる場合があります。